

平成29年度

# 海洋学習実践記録集



洋野町立中野小学校

## 目次

### ◇海洋科指導計画

1	海洋科の進め方	1
2	海洋科年間指導計画	3
3	単元指導計画	
	第1学年	5
	第2学年	7
	第3学年	9
	第4学年	10
	第5学年	12
	第6学年	14

### ◇実施計画書

第1学年	生活科体験学習	16
第1・2学年	生活科体験学習	18
第2学年	生活科体験学習	20
第2・6学年	生活科・海洋科体験学習	24
第3学年	海洋科体験学習	25
第3・4学年	海洋科体験学習	26
第4学年	海洋科体験学習	28
第4・5・6学年	海洋科授業計画	30
第5学年	海洋科体験学習	31
第5・6学年	海洋科体験学習	33
第6学年	海洋科交流学习計画	36
第5・6学年	洋野町海洋事業「海洋教育子どもサミット」	37
第6学年	洋野町海洋教育地域カンファレンス	38

### ◇実践記録

第1学年	39
第2学年	42
第3学年	44
第4学年	47
第5学年	49
第5・6学年	51
第6学年	53

### ◇資料

○4・5・6海洋科授業指導案・学習プリント	57
○第5回全国海洋サミット	61
○海洋プログラム	65

# 海洋科指導計画

# H29 年度 海洋教育の進め方

～私たちの教室は『洋野の自然と世界一の太平洋』～

## 海洋学習の進め方

### 1 各学年で取り組むテーマ

3年	4年	5年	6年
海と地域 海の生き物と仲良く	海と環境 水の循環 森、川、海	海と産業 水産業の不思議	海とこれからの自分 個人研究

### 2 主な学習段階：海洋教育4つの視点（A親しむ、B知る、C守る、D利用する）より

#### 各学年指導重点

3年	4年	5年	6年
A 海に親しむ B 海を知る	B 海を知る C 海を守る	C 海を守る D 海を利用する	C 海を守る D 海を利用する

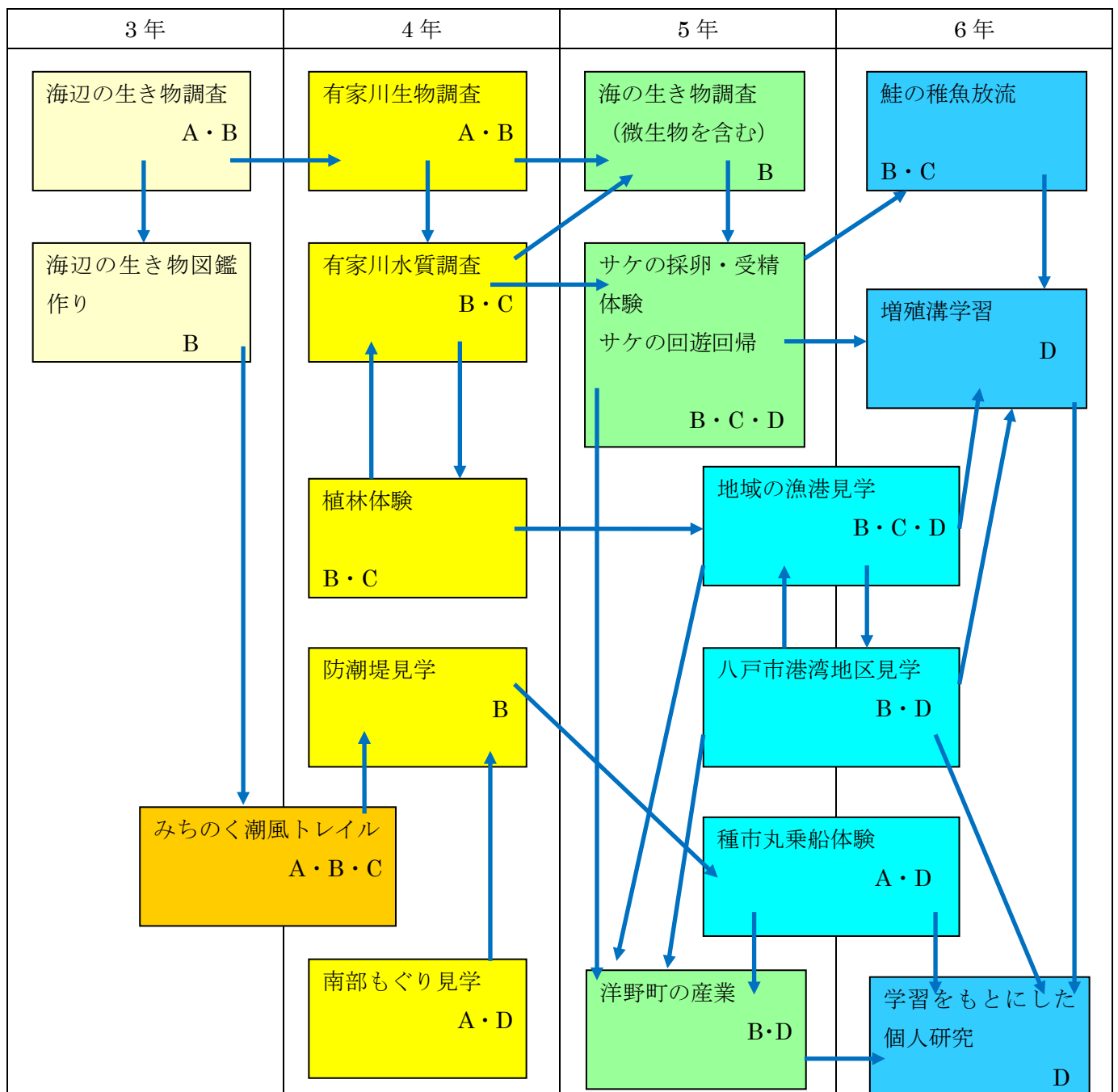
### 3 具体的な学習内容案

3年	4年	5年	6年
<ul style="list-style-type: none"> <li>海辺の生き物調査</li> <li>海辺の生き物図鑑作り</li> <li>みちのく潮風トレイル</li> </ul> <p>他教科とのつながり 理科：昆虫調べ 社会：私たちの町</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有家川水質調査</li> <li>有家川生物調査</li> <li>植林</li> <li>防潮堤見学</li> <li>南部もぐり</li> <li>みちのく潮風トレイル</li> </ul> <p>他教科とのつながり 理科：水の循環 社会：森は緑のダム 防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海の生き物（微生物）調査</li> <li>地域の漁港見学</li> <li>サケの採卵</li> <li>サケの回遊回帰（岩手県の栽培漁業）</li> <li>乗船体験</li> <li>ウニ培養センター</li> <li>八戸見学</li> </ul> <p>他教科とのつながり 理科：魚のたんじょう 社会：水産業、流通、貿易、海流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サケ放流</li> <li>地域の漁港見学</li> <li>他地域との比較</li> <li>増殖溝学習</li> <li>個人研究</li> <li>乗船体験</li> <li>ウニ培養センター</li> <li>八戸見学</li> </ul> <p>他教科とのつながり 理科：大地のつくり 地球の環境 社会：開港、歴史 修学旅行</p>

#### 4 その他

- ・5、6年で取り組む自由研究、卒業研究については、総合と海洋に関わるためどちらでも扱うこととし、基本的には長期休暇の取り組みとする。
- ・1年間同一テーマでの取り組みとする。テーマについては体験学習や調べ学習からの疑問をもとにする。また、本やインターネットから調べるのではなく、自分で体験しまとめるものが望ましい。最終的には形に残るものにする。(H27.28年度は卒業論文集を作成した。)
- ・学団での見学実施等、つながりをもたせる。
- ・発表会を開き学びのつながりをもたせる。また、学団等発表の機会をできるだけもつ。
- ・海洋科のノートを準備する。3～6年生まで共通のノートとし、次年度へ持ちあがる。(A4ノートを使用)

#### 6 内容系統表及び指導重点



# 海洋科年間計画

## 洋野町立中野小学校

### ◎3年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式	2学期始業式	避難訓練 遠足	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式	
海洋科	オリエンテーション 中野の地区を知ろう ・みちのく潮風 トレイルから海を見よう	海の生き物図鑑をつくろう ・どんな生き物があるのかな	海の生き物図鑑をつくろう ・どんな生き物があるのかな	海の生き物図鑑をつくろう ・どんな生き物なのか調べよう	海の生き物図鑑をつくろう ・どんな生き物なのか調べよう	海の生き物図鑑をつくろう ・どんな生き物があるのかな	海の生き物図鑑をつくろう ・どんな生き物なのか調べよう	海の生き物図鑑をつくろう ・発表会をしよう	昔から伝わる南部もぐり・南部もぐりを調べよう	昔から伝わる南部もぐり・南部もぐりを調べよう	調べてみよう海のこと・学習を振り返って	調べてみよう海のこと・学習を振り返って	
社会 (70時間)	『1 もっと知りたい みんなのまち』(24) 『1 わたしたちのまちはどんなまち』(13) P.12～21 ※中野地区の土地の様子、海や川との関わり	『1 もっと知りたい みんなのまち』(24) 『1 わたしたちのまちはどんなまち』(13) P.36～ ※中野地区の土地の様子、海や川との関わり	『1 もっと知りたい みんなのまち』(24) 『2 わたしたちの市の様子』(8) ※洋野の土地の様子 ※洋野町での仕事と海の関わり					『3 働く人とわたしたちの暮らし』(18) ※町内で作られているもの調べ わたしたちの洋野 P.38 P.48～		『4 変わるわたしたちの暮らし』(18) 『1 まちの人たちが受けつぐ行事』(7) 『昔の道具とくらし』(9) ※地区のむかしの暮らし調べ(海との関わりを中心に)		わたしたちの洋野 P.60	「まとめ」①
理科 (90時間)	○春の自然にとびだそう(4)			○わたしの研究(1)	○わたしの研究(1)	『5 太陽の光を調べよう』(8)	『5 太陽の光を調べよう』						

※ 海洋教育との関わりで補充指導する内『大単元』『小単元』

### ◎4年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式	2学期始業式	避難訓練 遠足	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式 卒業式
海洋科	オリエンテーション 中野の地区を知ろう ・みちのくトレイルから海を見よう	水の旅～山・川・海～ ・海に関する施設を調べよう	水の旅～山・川・海～ ・防潮堤見学しよう	水の旅～山・川・海～ ・有家浜の生き物の違いを調べよう	水の旅～山・川・海～ ・ふるさとの川探検(下水道・浄化槽出前講座)	水の旅～山・川・海～ ・ふるさとの川探検(水生生物調査)	水の旅～山・川・海～ 山と海のつながり ・植林体験	水の旅～山・川・海～ 山と海のつながり ・発表会をしよう	水の旅～山・川・海～ ・ダイバーの仕事調べよう	水の旅～山・川・海～ ・ダイバーの仕事調べよう	水の旅～山・川・海～ 学習を振り返って	水の旅～山・川・海～ 学習を振り返って
社会 (90時間)		『2 災害からまちを守るために』(9) P.31 ※地震と津波の関わり	わたしたちの洋野 P.68～70		『6 健康なくらしとまちづくり』 『2 水はどこから』(7) P.66～73 ※水の循環と関連	日本地図を広げて(新しいきょうど岩手)P.16	『7 昔から今へと続くまちづくり』(15) P.64～65 ※南部滞りの起こり	『8 わたしたちの県のまちづくり』(31)	『1 県の地図を広げて』(7) ※海と洋野町・岩手県の関連			『4 世界とつながるまちづくり』(4) 「まとめ」②
理科 (105時間)	『1 あたたくになると』(5) 『2 天気と気温』	『2 天気と気温』	『4 動物のからだのつくりと運動』(5)	『4 動物のからだのつくりと運動』 『5 暑くなると』(5) ○わたしの研究(1)		『7 すずしくなると』(5)	『7 すずしくなると』	『9 物の体積と温度』(7) 『10 水のすがたと温度』(12) ※水の循環と関連	『10 水のすがたと温度』 『11 寒くなると』(4)	『12 物のあたたまり方』(11) ※水、空気の循環と関連	『12 物のあたたまり方』	『13 生き物の1年をふり返って』(5)

※ 海洋教育との関わりで補充指導する内『大単元』『小単元』

### ◎5年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き	宿泊体験学習	1学期終業式	2学期始業式	避難訓練	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式 卒業式
海洋科	オリエンテーション	ぼくらの海のひみつをさがろう	地域の漁港見学 個人研究	地域の海洋施設 ・ウニ栽培センター	海は友だち	個人研究発表会	他地域の漁港・施設見学	サケ採卵		個人研究 サケの飼育		
社会 (100時間)	(1)『1 わたしたちのくらしと国土』(18) 『1 日本は世界のどこにある?』(4) ※海洋国としての日本のとらえ 『2 日本の地形と気候』(2)	『2 日本の地形と気候』(1) 『3 自然条件と人々のくらし』(8) 「まとめ」①	『2 自然条件と人々のくらし』(23) 『オリエンテーション』(3) 『1米作りのさかんな地域』(9) ※緑のダムとしての水田と関連 P.46～47	『2 水産業のさかんな地域』(7) P.78 .86 ※洋野町で行われている育てる漁業 ※以前行った鮭の放流体験	『3 これからの食料生産』(3)	「まとめ」③ 『3 工業生産を支える人々』(27) 『オリエンテーション』(1) 『1 自動車づくりにはげむ人々』(8) P.125	『1 自動車づくりにはげむ人々』(5) ※工場の立地条件と海との関わり ※自動車の海上輸送(海と運輸の関わり)			『5 国土の自然とともに生きる』(17) 『オリエンテーション』(1)	『1 森林を守る人々』(4) 『2 自然災害とともに生きる』(5) P.34～35 ※ 自然災害をふせぐ取り組み 『3 生活環境を守る人々』(3)	『3 生活環境を守る人々』(2) 「まとめ」②
理科 (105時間)	『1 天気の変化』(9)		『3 魚のたんじょう』(10)	『3 魚のたんじょう』 ○わたしの研究(1)	○わたしの研究(1)	『5 台風と天気の変化』(3) 『6 流れる水のはたらき』(13)	『6 流れる水のはたらき』 ※川の堆積作用と洋野町の大地の作りとの関わり	『8 人のたんじょう』(6)	『8 人のたんじょう』 『9 物のとけ方』(15)	『9 物のとけ方』	『9 物のとけ方』	

※ 海洋教育との関わりで補充指導する内『大単元』『小単元』



◎6年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き	修学旅行	1学期終業式	2学期始業式	避難訓練	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式 卒業式
海洋科	オリエンテー ション 2	地域の漁業を見 つめよう 3 個人研究	地域の漁港見学 4	地域の海洋施設 見学 ・ウニ栽培センター 2	海は友だち 1	個人研究発表会 4	他地域の漁港・施 設見学 3	個人研究・卒業論 文 4				私たちのふる さと中野 1
社会 (105時 間)	『1 日本の歴史』(70) 「1 国づくりへの歩み」 ⑦ ※狩猟採集生活で海の 占めていた役割	『2 大陸に学んだ国づく り』(8) ※大陸との交易路として の海の役割 P.22～31 ※海洋国日本の始まり		『幕府の政治と人々のく らし』 ※鎖国のもとの貿易 P.68 ～71	『8新しい時代の幕あけ』 ⑦ ※太平洋を越えての外 国とのつながり P.90～ 91		近代国家に向けて 戦争と人々のくらし P.106～133			『3 世界の中の日本』(19) 「オリエンテーション」① 「1 日本とつながりの深い国々」⑧P.18～25 「2 世界の人々とともに生きる」⑤ ※海を通しての外国とのつながり P.70～71		『2 世界の人々とと もに生きる』③ ※海を通しての外国 とのつながり
理科 (105時間 )	○地球と生き物のくらし (2) ※生き物のくらしとされ いな水との関わり	『2 動物のからだのはた らき』(9) ▶動物の呼吸 ※魚の呼吸(えらによる呼 吸)	『2 動物のからだのはた らき』 『3 植物のからだのはた らき』(7)	『4 生き物のくらしと環 境』(6) ※生き物のくらしと水の 関わり		『6 大地のつくり』(8) ※水の働きでできた地 層のでき方② ※私たちが住む大地は どのようにしてできたの か③ 『7 変わり続ける大地』 (4)		『8 水溶液の性質とはた らき』(11)	『8 水溶液の性質と はたらき』		『地球に生きる』(8)	『地球に生きる』

※ 海洋教育との関わりで補充指導する内「大単元」「小単元」

30

◎1年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式	2学期始業式	避難訓練 遠足	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式
海洋科				体全体を使って水 や砂を利用して遊 ぶ ルールを守って自 然物を使って遊ぶ 浜清掃	海にはどんな生 き物があるか な？	海で見つけたも のでおもちゃを つくろう	きせつのちが いをかんじよう		きせつのちが いをかんじよ う			
生活科				なつだあそぼう(9) みんなのこうえんであそ うぼう みずであそぼう P.36～37 42～43	いきものとなかよし むしさがそう P.52～53	つくろう あそぼう P.76～77	たのしいあきいっぱい		ふゆをたのしもう			

※ 海洋教育との関わりで補充指導する内容

0

◎2年  
生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式	2学期始業式	避難訓練 遠足	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式
海洋科	鮭の放流	さけますふ化場 見学		海にいる生き物 を育てよう 浜清掃		鮭放流について シーグラスを知 ろう						
生活科		どきどきわくわくまたん けん (9) P.21～31		生き物となかよし大作せ ん(12) P.33～46		もつとなかよしなちたん けん (12) P.69～85						

※ 海洋教育との関わりで補充指導する内容

0

## H25年度 第6学年 年間カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月														
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室		避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式		2学期始業式		避難訓練 修学旅行		学習発表会		避難訓練 収穫祭		2学期終業式		3学期始業式		修了式 卒業式							
海洋科	オリエンテーション	2 ふるさとを離れて ・鮭放流体験 ・海流と回遊	3 有家川調査隊 ・水生昆虫調査 ・淡水中の生物	4 海洋教育活動 有家川の先にある太平洋 海水中の生物	2 海の環境 ・海作り	1 海の環境 ・海作り 洋野の大地の広がり	4 洋野の大地の作り 生命の誕生	3 生命のつながり	4 生命の躍動	2 ふるさとを支える人として	1 ふるさとに帰る鮭	3 わたしたちのふるさと中野	1													
社会 (105時間)	『1 大昔の暮らし』(14) ・縄文のくらしウォッチング ② ※狩猟採集生活で海の占めていた役割		『2 大陸に学んだ国づくり』 ⑥ ※大陸との交易路としての海の役割 ※海洋国日本の始まり		『3 近代国家への歩み』 (14) ・1 新しい時代の幕開け ⑦ ※太平洋を越えての外国とのつながり		『6 大地のつくりと変化』(10) ※水の働きでできた地層の働き② ※私たちが住む大地はどのようにしてできたのか③		『8 水よう液の性質とはたらき』(11)		『8 水よう液の性質とはたらき』		『6 日本と世界のつながり』(17) 「オリエンテーション」① 「1 日本とつながりの深い国々」⑨ 「2 世界の人々とともに生きる」③ ※海を通しての外国とのつながり		『2 世界の人々とともに生きる』③ ※海を通しての外国とのつながり											
理科 標準105時間 (95時間)	①地球と生き物のくらし(2) ※生き物のくらしときれいな水との関わり		『2 動物のからだのはたらき』(9) ・動物の呼吸 ※魚の呼吸(えらによる呼吸)		『2 動物のからだのはたらき』 『3 植物のからだのはたらき』(7)		『6 大地のつくりと変化』(10) ※水の働きでできた地層の働き② ※私たちが住む大地はどのようにしてできたのか③		『8 水よう液の性質とはたらき』(11)		『8 水よう液の性質とはたらき』		『人と環境』(8)		『人と環境』											
総合的な学習の時間 (40時間)	「探索! 函館の街」7~10月15H										「思い出を残そう・夢の設計図」10~3月:20h															
特別活動	◆委員会活動 ◆生活の充実と向上 ◇日常生活や学習の適応及び健康や安全		◆委員会活動の所屬を決めよう ◆1年生を迎える会に向けて ◇最高学年になって ◇学級の目標を決めよう		◆運動会を成功させよう ◇遊びのきまりを守ろう ◇正しい姿勢で食べよう		◆雨の日の遊び方を工夫しよう ◇犯罪から身を守ろう ◇水の事故をなくそう		◆1学期の取り組みを振り返ろう ◇校外生活の安全を考えよう ◇夏休みの生活		◆2学期のめあてを決めよう ◇陸上記録会への取り組み		◆係の活動を見直そう ◇災害時の安全な行動を身に付けよう ◇修学旅行に向けて		◆学習発表会を成功させよう ◇犯罪から身を守ろう ◇目を大切にしよう		◆係の活動工夫しよう ◇図書室を利用しよう ◇感謝の心で食事をしよう		◆きれいな学校にしよう ◇2学期を振り返って ◇冬休みを礼儀正しく過ごそう		◆係、当番活動を見直そう ◇新年のめあてを考えよう ◇正しい言葉遣いをしよう		◆6年生を送る会のお礼について ◇寒さに負けず体をきたえよう ◇お世話になった人に感謝しよう		◆将来の夢を考えよう ◇もうすぐ中学生 ◇学校をきれいにしよう	



## H25年度 第5学年 年間カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式	2学期始業式	避難訓練	グリーンキャンプ 学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式 卒業式
海洋科	オリエンテーション 2	緑のダムとしての水田食糧生産としての水田 3	有家川調査隊 ・水生昆虫調査 ・淡水中の生物 4	有家川の先にある太平洋 ・海水中の生物 ・潮溜まりの生き物観察 2	ウニ・アワビを育てる洋野町 ・洋野町の産業を支える技術 ・ウニの発生実験 1	ウニ・アワビを育てる洋野町 ・洋野町の産業を支える技術 ・ウニの発生実験 4	洋野の大地の作り 3	生命のつながり ・鮭の採卵と受精体験 ・新巻作り 4 八戸魚市場見学	生命のつながり 2	ふるさとを支える人として 1	ふるさとに帰る鮭 わたしたちのふるさと中野 3	わたしたちのふるさと中野 1
社会 (100時間)	『1 わたしたちのくらしと国土』(18) ▶1 日本は世界のどこにあるの④ ※海洋国としての日本のとらえ 2 日本にはなぜ四季があるの②	『3 住みよいくらしと環境』⑩ 「まとめ」①	『2 食料生産を支える人々』(23) 1 農業のさかんな地域をたずねて 「(1) 稲作にはげむ人々」⑦ ※緑のダムとしての水田と関連	『2 自然を生かした農業』③ 「オリエンテーション」① 2 水産業のさかんな地域をたずねて 「(1) とる漁業にはげむ人々」④	『2 育てる漁業にはげむ人々』③ ※洋野町で行われている育てる漁業 3 これからの食料生産③		『2 自動車とどくまで』② ※自動車の海上輸送(海と運輸の関わり)		『世界を宇宙から見よう』(1) ※地球規模で見た海洋国としての日本	『5 環境を守る人々』(11) 「オリエンテーション」① 1 生活環境を守る③		『2 自然とともに生きる』③ 「まとめ」① 「予備」(2)
理科 標準105時間 (93時間)	『1 天気の変化』(9)		『3 魚のたんじょう』(10)	『3 魚のたんじょう』 ○わたしの研究(1)	○わたしの研究(1)	『5 台風と天気の変化』(3) 『6 流れる水のはたらき』(13)	『6 流れる水のはたらき』 ※川の堆積作用と洋野町の大地の作りとの関わり	『8 人のたんじょう』(6)	『8 人のたんじょう』 『9 ものとけかた』(13)	『9 ものとけかた』	『9 ものとけかた』	
総合的な学習の時間 (70時間)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">「オリエンテーション・米作りをしよう」4～10月:20h</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">「グリーンキャンプ」8～10月:20h</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「自分でできること」11～3月:20h</div>											
特別 学級活動	◆委員会所属を決めよう ◆1年生を迎える会に向けて ◇日常生活や学習の適応及び健康や安全	◆運動会に向けて ◇自転車を安全に乗ろう ◇汗の始末の仕方を知ろう	◆雨の日の遊びを考えよう ◇水の事故をなくそう	◆1学期の取り組みを振り返ろう ◇校外生活の安全を考えよう ◇夏休みの生活	◆夏休みの思い出を発表しよう ◇陸上記録会への取り組み	◆係を決めよう ◇災害時の安全な行動を身に付けよう ◇グリーンキャンプに向けて	◆学習発表会について話し合おう ◇落ち着いた勉強しよう ◇目を大切にしよう	◆係の活動を工夫しよう ◇図書室を利用しよう ◇衣服を上手に調節しよう	◆きれいな学校にしよう ◇身の回りの整理整頓をしよう ◇2学期を振り返ろう	◆係、当番活動を工夫しよう ◇新年のめあてを考えよう ◇正しい言葉遣いをしよう	◆寒さに負けず体をきたえよう ◆6年生を送る会に向けて ◇風邪を予防しよう	◆最高学年に向かって ◇登下校の安全を考えよう ◇縦割り班を引き継ごう

## H25年度 第4学年 年間カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式	2学期始業式	避難訓練 遠足	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式 卒業式
海洋科	オリエンテーション 2	ふるさと洋野を知ろう 3	ふるさとの川探検隊 有家川調査 水生生物水質調 4	ふるさとの川探検隊 有家川調査 水生生物水質 2	洋野の大地の作り 1	洋野の大地の作り 4	山と海のつながり 3	山と海のつながり 4	地球の水の巡り方 2	地球の空気の巡り方 1	地球の空気の巡り方 3	学習を振り返って 1
社会 (90時間)		『2 火事を防ぎ、地震にそなえる』⑨ ※地震と津波の関わり			『6 健康なくらしとまちづくり』 『2 水はどこから』⑦ ※水の循環と関連		『7 昔から今へと続くまちづくり』(15) ※南部潜りの起こり	『8 わたしたちの県のまちづくり』(31)	『1 県の地図を広げて』⑦ ※海と洋野町・岩手県の関連			『4 世界とつながるまちづくり』④ 『まとめ』②
理科 標準105時間 (93時間)	『1 あたたくくなる』(6) 『2 天気のようにと気温』	『2 天気のようにと気温』	『4 動物のからだのつくりと運動』(5)	『4 動物の体のつくりと運動』 『5 暑くなる』(5) ○わたしの研究(1)		『7 すずしくなる』(5)	『7 すずしくなる』	『9 ものの体積と温度』(7) 『10 水のすがたとゆくえ』(12) ※水の循環と関連	『10 水のすがたとゆくえ』 『11 寒くなる』(4)	『12 物のあたたまりかた』(10) ※水、空気の循環と関連	『12 もののあたたまりかた』	『13 生き物の1年をふり返って』(5)
総合的な学習の時間 (70時間)	「オリエンテーション・畑からのプレゼント」4～11月：15h						「1/2成人式をしよう」12～3月：20h					
	「手と心をつないで」6～7月：15h											
特別活動	◆学級活動 ◆生活の充実と向上 ◇日常生活や学習の適応及び健康や安全	◆運動会に向けて ◇中小のきまりを守ろう ◇交通のきまりを守ろう	◆雨の日の遊び方を考えよう ◇犯罪から身を守ろう ◇かむことの大切さを知ろう ◇むし歯を防ごう	◆1学期の取り組みを振り返ろう ◇身の回りの整理整頓をしよう ◇夏休みを元気に過ごそう	◆夏休み発表会をしよう ◇2学期のめあてを決めよう	◆係を決めよう ◇災害時の行動を身につけよう ◇遊びのきまりを守ろう	◆学習発表会について話し合おう ◇落ち着いて勉強しよう ◇話の聞き方・話し合いの仕方 ◇バランスの良い食事をしよう	◆係・当番活動を工夫しよう ◇図書室を利用しよう ◇協力して仕事をしよう	◆きれいな学校にしよう ◇身の回りの整理整頓をしよう ◇冬休みを礼儀正しく過ごそう	◆係を決めよう ◇新年のめあてをつくらう ◇しっかりした挨拶と返事	◆6年生を送る会に向けて ◇寒さに負けず体をきたえよう ◇休み時間の安全に気をつけよう	◆3学期の取り組みを振り返ろう ◇もうすぐ5年生 ◇登下校の安全に気をつけよう

H25年度 第3学年 年間カリキュラム

洋野町立中野小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
学校行事	1学期始業式 身体測定 交通安全教室	避難訓練 運動会 農園開き		1学期終業式	2学期始業式	避難訓練 遠足	学習発表会	避難訓練 収穫祭	2学期終業式	3学期始業式		修了式		
海洋科	オリエンテーショ ン 中野の地区を知ろ う ・有家川が流れ、 海に面した中野地	2 洋野町を知ろう ・海と洋野町	3 ふるさとの川探検 隊 ・有家川調査	4 川に住む生き物	2 海に住む生き物	1 海に住む生き物	4 太陽の光の力 ・海の水も温ま る?	3 山と海のつながり	4 調べてみよう海の こと ・課題探し	2 調べてみよう海の こと	1 調べてみよう海の こと	3 調べてみよう海の こと	1 調べてみよう海の こと	
社会 (70時間)	『1 もっと知りたい みんなのまち』(24) 「1 わたしたちのまちはど んなまち」⑬ ※中野地区の土地の様 子、海や川との関わり	『1 もっと知りたい みんなのまち』(24) 「1 わたしたちのまちはど んなまち」⑬ ※中野地区の土地の様 子、海や川との関わり	『1 もっと知りたい みんなのまち』(24) 「2 わたしたちの市の様 子」⑧ ※洋野の土地の様子 ※洋野町での仕事と海の 関わり						『3 調べよう 物をつくる仕 事』 ※町内で作られているもの 調べ		『4 さぐってみよう 昔のく らし』(18) 「オリエンテーション」① 「1 まちの人たちが受けつ ぐ行事」⑦ 「昔の道具とくらし」⑨ ※地区のむかしの暮らし調 べ(海との関わりを中心に)			「まとめ」①
理科 標準90 (82)	○春の自然にとびだそう (4)			○わたしの研究(1)	○わたしの研究(1)	『5 太陽の光を調べよう』 (8)	『5 太陽の光を調べよう』							
総合的な学 習の時間 (70時間)	「オリエンテーション・シイタケを育てよう」4～10月:20h										「むかしをたずねて」1～3月:15h			
	「しぜんってふしぎだね」6～8月:15h													
活 動 別	学級活動 ◆1年生を迎える会に向けて ◆生活の充実と向 上 ◇日常生活や学習 の適応及び健康や	◆がんほれ運動会 ◇中小のきまりを守ろう ◇給食後の歯みがきをしよう ◇3年生になって	◆雨の日の遊びを考えよう ◇フールのきまりを守ろう ◇友だちのいいところみつ	◆1学期の取り組みを振り返ろ う ◇正しい手洗いをしよう ◇夏休みを元気に過ごそう	◆2学期のめあてを決めよう ◇生活のリズム	◆代表者会議に向けて ◇災害時の行動 ◇遊びのきまりを守ろう	◆学習発表会について話し合 う ◇落ち着いて勉強しよう ◇話の聞き方・話し合いの仕	◆係・当番活動を工夫しよう ◆クラブ活動楽しみた ◆図書室を利用しよう ◇衣服の調節をしよう	◆きれいな学校にしよう ◆学級お楽しみ会をしよう ◇冬休みを礼儀正しく過ご	◆係を決めよう ◇3学期のめあてを決めよう ◇正しい言葉遣いをしよう	◆6年生を送る会に向けて ◇風邪をひかないようにしよう	◆3学期の取り組みを振り返 ろ ◇登下校の安全を考えよう ◇もうすぐ4年生		

有家浜「サンドクラフトだいさくせん」

次	時	ねらい	主な学習活動	評価規準	
1 く さ ば な や む し を さ が そ う	①	○諸感覚を使って、草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり、草花や樹木を使って遊んだりすることを通して、季節を感じ夏の動植物の色や形などの特徴に気付くことができるようにする。	しろつめくさでつくってみよう う ・校庭のまわりを観察する。 ・植物の様子や生きものに関心をもつ。 あさがおでかいてみよう ・自分たちが育てたあさがおで、色水ができるか観察する。 ・色水で絵を描いてみる。	・諸感覚を使って、夏の草花や虫を観察したり、夏の草花で工夫して遊んだりしている。 (思・表) ・夏の草花や虫の特徴や、夏の草花で楽しく遊べることに気付いている。(気付き)	
	③		はっけんしたことをつたえよう う ・学校のまわりやあさがおの観察からわかったことを発見カードに記入し、交流する。		・校庭や学校の周りの夏を探したり、見つけた夏を絵や文に表したりすることができる。 (思・表)
2 み ず で あ そ ぼ う	①	○体全体を使って水や砂と戯れたり、水や砂を利用して遊ぶものを工夫してつくったりしながら、水や砂の性質や不思議さや面白さに気付き、地域の海に対する愛着をもって、友達と遊びを楽しむことができるようにする。	しゃぼんだまを大きくしたり、たくさんつくったりしてみよう ・道具の工夫を考えながら、シャボン玉遊びを行う。 ・シャボン玉競争を行う。	・水を使った遊びを考え、友達と比べたり、繰り返し試したりしながら、自分なりに工夫して遊んでいる。(思・表)	
	②		砂場であそぼう ・砂場の砂を使って、みんなで遊ぶ。		・友達と一緒に、砂場で楽しそうに遊んでいる。 (関・意・態) ・活動を通して、土や砂の性質について話している。(気付き)
	③ 本 時		どんなサンドクラフトができるかな ・前時の砂場遊びをもとに、どんな砂遊びができるか考える。 ・一人で考え、グループで交流する。 ・有家浜での計画を立てる。		・友達と関わりながら、楽しく活動することができる。(関・意・態) ・身近にある物を使って、サンドクラフトを工夫して作ろうとしている。(思・表) ・身近な自然へふれあうことの楽しさや、友達・自

				分の良さに気付くことが出来る。(気づき)
	④		<p><b>サンドクラフトコンテスト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで考えた遊びを実践してみる。</li> <li>・友達と協力し、1回目との違いを感じながら活動する。</li> <li>・次の単元に向けて、海の漂流物や、貝殻、シーグラスなどにも目を向けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂を使って楽しく遊べることや遊びを工夫する面白さ、砂の性質の不思議さに気付いている。(気づき)</li> <li>・砂浜での活動や、海と楽しく関われる自分や友達によさに気付いている。(気づき)</li> </ul>
	⑤		<p><b>はっけんしたことをみんなにつたえよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回目の活動で発見したこと、1回目との違いを発見カードに記入する。</li> <li>・考えを交流し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海や砂浜の環境を生かして遊ぶなど、自然に関わる楽しみ方を工夫することができる。(思・表)</li> </ul>
3 み ん な の こ う え ん で あ そ ぼ う	① ②	○ルールやマナーを守って、公園の遊具や自然物を使って遊び、みんなと遊ぶ楽しさに気付くとともに、公園は自分たち以外にもいろいろな人が利用する場所であることが分かり、安全に気を付けて、正しく利用することができるようにする。	<p><b>公園のつかいかたを考えよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足で使う施設の使い方を考える。</li> <li>・2年生と一緒に、使い方を確かめながら楽しく遊ぶ。</li> <li>・活動をふりかえり、学校や地域へ視点を向けさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な公園や施設に関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。(関・意・態)</li> <li>・公園がみんなでする場所であることがわかるとともに、公園には、楽しく安全に利用するためのルールやマナーがあることに気付いている。</li> </ul>

2年生活科「もっとなかよし まちたんけん」単元計画

次	時	ねらい	主な学習活動	評価規準(評価方法)
一	1	・地域の海に関する施設や人の中から、行ってみたい場所を話し合い、行く場所を決めて、探検の準備をすることができるようにする。	海についての仕事や活動をしている人達を思い出そう。 ・地域で経験したことや知っていることを発表し合う。 ・友達の話や先生の話聞いて思ったことを話し合う。	【関】地域の海に関する仕事や活動をしている人々に関心をもっている。(行動) 【思・表】これまでの自分が地域で経験した出来事や施設を分かりやすく話している。(会話・発表)
	2		町探検の場所とグループを決めよう。 ・興味のある人や場所について話し合い、どこへ行くか決める。 ・グループを決める。	【関】興味のある人や場所について、町探検でのめあてをもって話し合いに参加している。(行動・会話) 【思・表】会いに行きたい人や場所が同じ友達と話し合って、グループをつくっている。(行動・会話)
	3		探検に行く計画を立てよう。 ・グループごとにめあてや質問事項を考え、答えを予想する。 ・自分たちの計画を発表する。	【関】グループで話し合いながら、めあてや質問を進んで考えている。(会話・記録) 【思・表】町探検での質問を友達と話し合っている。(行動・会話)
二	1	・探検の計画に沿って、グループで地域に出かけ、地域で海に関する仕事や活動をしている人と関わる中で、その人たちの思いや工夫に気付き、地域の人ともっと関わりたいと思いをもちことができるようにする。	町探検1に出かけよう。 ・グループに分かれ、計画に沿って探検に出発し、見学したりインタビューしたりする。 ・次の探検の時に一緒にできる体験活動を確認してくる。	【思・表】交通ルールや見学場所のきまりを守って行動している。(行動) 【思・表】地域の人の様子を観察したり、インタビューしたりしながら、地域の人に迷惑にならないように探検をしている。 【気付き】自分たちの予想とは違うことに気付いている。(記録・会話)
	3		町探検1の報告をしよう。 ・見学したことや地域の人にインタビューしたこと、気付いたことを記録カードにかく。 ・気付いたことを友達と確かめ合う。	【気付き】町探検で見つけてきた地域の人々の思いや工夫などを記録カードにかいたり、友達に伝えたりしている。(記録・会話)
三	1	・地域の人々と話をしたり、いっしょに何かをしたりして繰り返し関わる中で、それらの人々が地域の海や自分達の生活と関わっていることに気付き、地域の人々に親しみや愛着をもつことができるようにする。	もう一度町探検に行く計画を立てよう。 ・地域の人と一緒にやることを確認し、もっと聞きたいことを話し合う。	【関】地域の人ともっと仲良くなりたいたい、海と関わりたいという思いを発言しながら、地域の人にもっと聞いてみたいことを話し合っている。(発言・会話)
	2		いっしょに活動しよう町探検2 ・計画に沿って、地域の人所へ行き、体験活動をする。	【関】以前の探検よりも、地域の人とたくさん話したり、触れたりするなどして、親しみを表している。(行動)
	3			

く な ろ う			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人が、海・地域に寄せ る思いについて聞く。</li> </ul>	<p>【気付き】地域の人話を聞きながら、う なずいたり、感心したり、質問したりしてい る。(記録・行動)</p>
	4		<p>町探検2の報告をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動をして分かったこと や感じたことを記録カ ードにかく。</li> <li>・気付いたことを友達と確かめ 合う。</li> </ul>	<p>【気付き】体験活動を通して感じた、地域 の人々の思いや工夫などを記録カ ードにかいたり、友達に伝えたりしている。 (記録・会話)</p>
四 な か よ く な っ た 人 の こ と を し よ う か い し よ う	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で関わった人々の ことを振り返り、友達と伝 え合う活動を通して、自 分達の地域には、海に関 わる仕事や活動をしてい るすてきな人や場所があ ることが分かり、地域や海 への親しみや愛着をもつ ことができるようにする。</li> </ul>	<p>1年生に発表したいことを話し 合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで1年生に発表した いことを話し合う。</li> <li>・発表するための表現方法を 決める。</li> </ul>	<p>【思・表】メモや記録カードを見ながら、同 じグループの友達と、分かったことや見付 けたこと、感じたことを話し合っている。 (会話・発表)</p>
	2		<p>発表の準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やカードを見ながら、探 検してきたことや体験してきた ことを確かめる。</li> <li>・発表の準備をする。</li> </ul>	<p>【思・表】友達と協力して、地域の人たち の活躍の様子や知らせたいことを発表の 原稿にまとめている。(会話・行動)</p> <p>【気付き】地域の中に愛着のある場所が 増えたり、人々と親しくなったりしたことを 話している。(会話)</p>
	3		<p>発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人と関わって分かった ことを1年生に発表する。</li> </ul>	<p>【思・表】写真を活用しながら、地域の人 々の活躍の様子や、地域の海について 知ったことを話している。(発表)</p> <p>【気付き】発表の中で、地域にある場所の 名前や関わった人々の名前が数多く出 ている。(発表・会話)</p>



3年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 3	○みちのく潮風トレイルから海を見よう。 (3)	・海の様子をみて海に親しむ。 (活動)	・地形や漂流物などを知る。 (ノート)		
調べる 2 1	○見学の計画を立てる。 (有家浜生き物調べ) ・海の様子。 ・どんな生き物がいるか。 ・課題づくり (3)	・浜や海に親しむ。 (活動)	・海の様子を知りどんな生き物がいるか調べる。 (ノート)		
	○有家浜生き物調べ。 ・実際にどんな生き物がいるか調べる。 ・どんな場所にいるか。 ・種類。 ・大きさ ○ノートにまとめる。 (6)	・海の生き物に親しむ。 (活動)	・見つけた生き物を図鑑などを使って調べる。 ・生き物の特徴を知る。 (ノート)		
	○見学の計画を立てる。 (有家浜生き物調べ) ・季節による生き物の違い。 ・海の様子の違い。 (6)  ○有家浜生き物図鑑づくり ・有家浜にすむ生き物。 ・特徴。 ・季節による違い。 (6)	・季節による海の違い、生き物の違いに気付き親しむ。 (活動)	・季節によってなぜ海の生き物の種類が違うか調べる。 (ノート・発言)  ・見つけた生き物の特徴や気付いたことを図鑑にまとめ、生き物について知る。 (ノート・図鑑)	・生き物と環境について気づき、きれいな海を守ろうとする。 (ノート)	
まとめる 4	○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。 ・発表会に向けて資料作り (4)				
ひろげる 2	○発表会をする。 ・次年度へ向け活動の視点をもつ。 ・さらに調べてみたいことへの意欲付け。(2)		・今後の課題につなげている。 (発表)		

4年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 4	○海について知る。 ○みちのく潮風トレイルから海を見よう。 (4)		・生活経験から知っていることをまとめている。 (ノート)	・海と人を守る施設に気が付く。 ・漂流物に目を向け、海を守ろうとする。 (活動)	
調べ る 20	○見学の手立てを立てる。 (防潮堤見学) ・津波からまちを守る施設とその限界。 ・津波から身を守る方法。 ○個人新聞にまとめる。 (4)		・津波からまちを守る施設について調べている。 ・地震、津波が起きた場合どのように行動すれば良いか調べる。 (活動・質問)	・津波からまちを守る施設の役割や限界を知ることによって自分の命を守ろうとする。 (活動・新聞)	
	○活動の手立てを立てる。 (有家浜生き物調べ) ・有家浜にすむ生き物。 ・昨年との比較。 ○ノートにまとめる。 (4)	・有家浜にすむ生き物を見つける。 (活動)	・どんな生き物がいるか知る。 ・昨年度と比較する。 (インタビュー・ノート)		
	○学習の手立てを立てる。 (下水道・浄化槽出前講座) ・使用後の水の行方。 ・下水処理の方法。 ・水の循環 ○ノートにまとめる (3)	・下水を処理する微生物を観察する。 (活動)	・下水処理方法を知る。 ・水の循環を知る。 (ノート・発言)	・川や海を汚さないために自分ができることを考える。 (感想・発言)	
	○活動の手立てを立てる。 (有家川水生生物調査) ・水生生物を指標とした水質調査。 (3)	・有家川にすむ水生生物を探す。 (活動)	・すんでいる生物から水質がきれいかどうか調べる。 (活動)	・川を守るためにできることを考える。 (ノート)	
	○活動の手立てを立てる。 (植林体験) ・植林の仕方を学ぶ。 ・植林する意味を知る。 ・山と海の豊かさについて考える。 (3)		・植林をする必要性を知る。 ・山と海の豊かさのつながりを知る。 (ノート・発言)	・水産資源を守るために自分ができることを考える。 (ノート)	・漁業のために山を利用していることに気付く。 (ノート)
	○見学の手立てを立てる。 (種市高校海洋開発科) ・南部もぐりの見学。	・海の仕事に興味をもつ。 (活動)	・海の仕事について知る。		・海の恵みを利用している

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような仕事をしているか調べる。</li> </ul> <p>(3)</p>		(活動)		<p>ことを知る。 (ノート)</p>
ま と め る 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。</li> <li>・他の地域と比べてみて。</li> <li>・考察。</li> <li>・プレゼンテーション作り</li> </ul> <p>(4)</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産資源を守るための取り組みを考えている。</li> </ul> <p>(発表資料)</p>	
ひ ろ げ る 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表会をする。</li> <li>・次年度へ向け活動の視点をもつ。</li> <li>・さらに調べてみたいことへの意欲付け。</li> </ul> <p>(1)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の課題につなげている。</li> </ul> <p>(発表)</p>		

5年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 4	○栽培センターの見学学習を行う。（2）  ○ウニの殻むきの見学学習を行う。（2）	・地元の特産品に関心をもつ。	・地元の海がウニの成長に適した場所であることを知る。 ・地元産業について知る。  （活動）		
調べ   る 19	○地元の海に関わる漁業施設を調べる。（2）  ○見学の計画を立てる。 ・八木漁港で水揚げされる水産物 ・漁港で働く人々 ○ノートにまとめる。  （5）		・地域には漁業施設がたくさんあることを知る。（活動・インタビュー） ・地元水産業の特徴を調べている。 ・予想と比べながら見学を行っている。 （インタビュー）		
	○見学の計画を立てる。 （サケマス孵化場 採卵体験） ・遡上したサケの様子 ・採卵を行う漁業関係者の人々の様子（5） ・ノートにまとめる		・孵化場の様子 ・働く人々の工夫や努力（インタビュー・シート）	・震災の影響から人々が努力を重ね、遡上するサケの数が増加してきたことを考える。 （インタビュー）	
	○地域の水産業の特徴を考える。（1） ・豊富な漁場 ・サケの回遊。 ・海流との関わり。		・日本近海の海流について調べている。 ・サケの回遊と海流豊富な水産資源と海流の関係を考えている。 （ノート・発言）	・豊かな海を守るために自分達にできることを考える （ノート）	・地形と海流を利用していることに気づいている。 （ノート・発言）
	○他地域の漁業と比べる。  （6） ・八戸魚市場を見学する。 ・水産加工場を見学する。		・他地域と比較しそれぞれの産業の特徴を知る。		・地形と海流を利用していることに気づいている。
まとめ る 4	○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。 ・他の地域と比べてみて。 ・考察。 ・プレゼンテーション作り  （4）			・水産資源を守るための取り組みを考えている。 （発表資料）	

ひろげ る 3	<p>○発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度へ向け活動の視点をもつ。</li> <li>・さらに調べてみたいことへの意欲付け。(3)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の課題につなげている。</li> </ul> <p>(発表)</p>		
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	------------------------------------------------------------------------------	--	--

6年 単元計画

過程	主な学習内容	育てたい力（評価規準と方法）			
		親しむ	知る	守る	利用する
つかむ 1	○地域の特産品を知る。 (1)		・生活経験から知っていることをまとめている。 (ノート)		
調べ 2 1	○見学の計画を立てる。 (ウニ栽培センター) ・ウニの生態。 ・洋野の水産業の仕組み。 ・ウニの養殖の方法。 ・震災の被害。 ○個人新聞にまとめる。 (4)		・ウニの生態と養殖方法を調べている。  ・震災後の影響と復興の様子を調べている。 (活動・インタビュー・)	・ウニを養殖するための環境を守ろうとしている。 (活動・新聞)	
	○個人研究の計画を立てる。 (2) ○個人研究を進める。 (5)				
	○見学の計画を立てる。 (修学旅行) ・函館の水産業。 ・開港の歴史。 ・世界とのつながり。 ○壁新聞にまとめる。 (4)  ○見学の計画を立てる。 (八戸魚市場見学・水産加工場見学) ・水揚げの特徴。 ・水産加工品の流通。 ・海岸線の違い。 ・他地域との違い。 (5)	・他地域の水産業の様子を調べ他地域の海に親しむ。 (活動)	・函館の水産業の特徴を調べている。 ・自分たちが住む地域と比べている。 ・開港の様子から世界とのつながりを調べている。 (インタビュー)  ・他地域の水産業の特徴について調べている。 ・海岸線のつくりについて知る。 (インタビュー・シート)	・漁獲量の様子から、海水温・温暖化の影響を考えている。 (新聞)	・地形と海流を利用していることに気づいている。 (ノート・発言)
	○地域の水産業を見なおす。 (1) ・地形の特徴。 ・土地の利用。 ・先人の工夫。		・増殖溝について調べている。 ・洋野の大地のつくりと先人の工夫を調べている。 (ノート・発言)		
まとめ	○活動を通して分かったこと・感じたこと・考えたことについてまとめる。 ・他の地域と比べてみて。			・水産資源を守るための取り組みを考えている。	

<p>る 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考察。</li> <li>・ プレゼンテーション作り (2)</li> </ul> <p>○ 個人研究をまとめる。 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究を通して海洋資源に親しむ。 (研究)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究から新たな発見をする。 (研究)</li> </ul>	<p>(発表資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人研究で見つけた課題に沿って、海を守ろうとする。 (研究)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海洋資源を利用しようとする。 (研究)</li> </ul>
<p>ひろ げ る 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表会をする。</li> <li>・ 次年度へ向け活動の視点をもつ。</li> <li>・ さらに調べてみたいことへの意欲付け。(2)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の課題につなげている。 (発表)</li> </ul>		



# 実 施 計 画 書

## 第1学年 生活科体験学習 実施計画書

### 1 ねらい

- (1) 砂遊びをしたり、体を動かす活動をしたりすることで、海に親しむ心情を育てる。
- (2) 体験を通して地元の海を大切にしようという態度を育てる。
- (3) 体験活動を通して、さらなる課題を見付け今後の学習活動の見通しを持つ。

### 2 期日

平成 29 年 9 月 12 日 (火)      生活科    2 時間  
(雨天の場合は 20 日)

### 3 見学箇所

有家浜

### 4 単元の指導計画

単元	目標
オリエンテーション (1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海で 2 回目の遊びをする計画をたてる。(1 年)</li> <li>・有家浜の特徴を考えながら、どんなことなら遊べるか考える。</li> </ul>
夏だ あそぼう 水で あそぼう (本時 2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな砂地でサンドクラフトをすることで、海の環境に親しみ、夏を楽しむ。</li> <li>・自分たちで考えた遊びで協力しながら遊ぶことができる。</li> </ul>
学びを交流しよう (1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に遊んでみたり、見たことや触ったりしたことなど、五感を通して学んだことを交流し合う。</li> <li>・地域の海に再び行ってみたい、遊びたい、環境をきれいなまま保ち続けたいという気持ちを持ち、海洋科「海に親しむ・海を知る・海を守る」ことにつなげる。</li> </ul>

### 5 日程

9 : 3 0    出発  
9 : 4 0    有家浜 到着 活動  
11 : 2 0    有家浜 出発  
11 : 3 0    学校 到着

### 6 参加学年学級人員、参加率

第1学年	男	4名	女	5名	計	9名	参加率	100%
たんぼぼ	男	1名	女	0名	計	1名	参加率	100%

### 7 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 内田 浩昭 (児童引率・生徒指導)  
教諭 中居 ゆかり (生徒指導・特別支援)  
支援員 林下 睦子 (安全指導)

## 8 移動手段および連絡先

移動手段 スクールバス                      連絡先 65-2330 種市タクシー

## 9 所要経費と拠出方法

- (1) 経費            0円
- (2) 拠出方法    なし

## 10 服装および持ち物

服装            中野小学校運動着（半袖短パン、長袖長ズボン）、紅白帽子

持ち物        水着（中に着ていく）、着替え用シャツ（予備）、タオル、プールバック、カ  
                 ッパ、ぬれてもいい靴（予備）

学校で準備する物

                 ゴミ袋3袋、ブルーシート、救急バック、シャベル、プリンカップ、バケツ  
                 じょうろ ペットボトル2本（手洗い用水入れ）

### 11 事前指導

- (1) 集団行動の規律を守って安全に行動できるようにする。
- (2) 海の特徴を生かした遊びを実践する学習の目的をとらえる。

### 12 事後指導

- (1) 再び地域の海に行ってみたい、遊びたい、違う季節の海を知りたいなど海との関わりを持ち続けられるようにする。
- (2) 3年生からの海洋科「海に親しむ・海を知る・海を守る」で、引き続き海の学習ができることを知らせ、海について学習することへの興味関心を高める。
- (3) 遊ぶだけでなく、海の漂着物や海に関連する物でおもちゃを作ってみようと意欲付けを図る。

### 13 実施のための安全計画

- (1) 事故などの緊急の場合は、校長（副校長）に連絡し、適切な対応をする。
- (2) 朝に健康観察をして体調がすぐれない児童は家庭との相談の上、参加・不参加を決める。
- (3) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を持参する。

## 第1・2学年 生活科体験学習 実施計画書

### 1 ねらい

- (1) 海洋生物を探したり砂遊びをしたりすることで、海に親しむ心情を育てる。
- (2) 海岸清掃を通して、地元の海を大切にしようという態度を育てる。
- (3) 体験活動を通して、さらなる課題を見付け今後の学習活動の見通しを持つ。

### 2 期日

平成 29 年 7 月 10 日 (月)      生活科    2 時間

(雨天の場合は 11 日)

### 3 見学箇所

有家浜

### 4 単元の指導計画

単元	目標
オリエンテーション (1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ややゴミが散乱している有家浜で、海洋生物が気持ちよく過ごせるように、海の環境をきれいにしようとする気持ちを持つ。</li> <li>・海で夏を楽しむ遊びをする計画をたてる。(1 年)</li> <li>・身近にある有家浜にはどんな生き物がすんでいるのかを考え、生き物を飼う計画をたてるとともに、海洋科への興味や関心を持つ。(2 年)</li> </ul>
有家浜をきれいにしよう (1 時間) 本時 (1・2 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋環境をきれいにするために、ゴミ拾いをする。</li> </ul>
夏を楽しもう (1 時間) 本時 (1 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな砂地でサンドクラフトをすることで、海の環境に親しみ、夏を楽しむ。</li> </ul>
海の生き物を調べよう (1 時間) 本時 (2 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の生き物を見たり直接ふれたりして、海洋生物に親しみを持つ。</li> <li>・海の生き物探しをして、予想との違いや新たに発見したことをもとに、さらに海について興味関心を高める。</li> </ul>
学びを交流しよう (1 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家浜にすむ海洋生物や環境について、見たことや触ったことなど、五感を通して学んだことを交流し合う。</li> <li>・地域の海に再び行ってみたい、遊びたい、環境をきれいなまま保ち続けたいという気持ちを持ち、海洋科「海に親しむ・海を知る・海を守る」ことにつなげる。</li> </ul>

### 5 日程

9 : 2 0	学校	出発	
9 : 3 0	有家浜	到着	活動
1 1 : 1 0	有家浜	出発	
1 1 : 2 0	学校	到着	

6 参加学年学級人員、参加率

第1学年	男	4名	女	5名	計10名	参加率100%
第2学年	男	7名	女	7名	計14名	参加率100%
たんぽぽ	男	1名	女	0名	計1名	参加率100%

7 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 内田 浩昭(児童引率・生徒指導) 教諭 貴田 靖子(児童引率・生徒指導)  
教諭 中居 ゆかり(生徒指導・特別支援) 支援員 米内 ひとみ(安全指導)  
支援員 林下 睦子(安全指導)  
地域ボランティア 名(安全指導)

8 移動手段および連絡先

移動手段 スクールバス 連絡先 65-2330 種市タクシー

9 所要経費と拠出方法

- (1) 経費 0円
- (2) 拠出方法 なし

10 服装および持ち物

服装 中野小学校運動着(半袖短パン、長袖長ズボン)、紅白帽子  
持ち物 水着(中に着ていく)、着替え用シャツ(予備)、タオル、ゴミ袋5袋、  
ブルーシート、プールバック、カッパ、ぬれてもいい靴(予備)

11 事前指導

- (1) 集団行動の規律を守って安全に行動できるようにする。
- (2) 地域の海洋生物とのふれあいや環境保全など、学習の目的をとらえる。

12 事後指導

- (1) 1, 2年生で学びを交流し合うことで、再び地域の海に行ってみたい、遊びたい、環境をきれいなまま保ち続けたいなどという気持ちを持つ。
- (2) 3年生からの海洋科「海に親しむ・海を知る・海を守る」で、引き続き海の学習ができることを知らせ、海について学習することへの興味関心を高める。

13 実施のための安全計画

- (1) 事故などの緊急の場合は、校長(副校長)に連絡し、適切な対応をする。
- (2) 朝に健康観察をして体調がすぐれない児童は家庭との相談の上、参加・不参加を決める。
- (3) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を持参する。

## 第2学年 生活科町探検 実施計画書

洋野町立中野小学校

### 1 目的

- (1) 自分達で計画を立てて、地域に出かけ、様々な場所を調べたり、地域の場所や人との関わりを広げる。
- (2) 見学先で質問し、メモを取る活動を通して、話す力・聞き取る力を育てる。
- (3) 集団行動のきまりや公共道徳を守って行動する態度を育てる。

### 2 教育課程における位置づけ及び時数

単元名「どきどき わくわく まちたんけん」9時間

- ① オリエンテーション・学習計画・探検準備… (3時間)
- ② 町探検… (2時間) 本時
- ③ 学習のまとめ… (4時間)

### 3 期日

平成29年5月31日(水)

### 4 見学箇所

- (1) Aグループ(4名)  
おおくぼ商店、中野郵便局、中野駐在所
- (2) Bグループ(3名)  
おしゃれ館、ミニストップ中野店、丸大建設
- (3) Cグループ(4名)  
館とうふ店、吉田商店、有家簡易郵便局
- (4) Dグループ(3名)  
100円店、小森とこや、長根商店

### 5 日程等

9:20	学校発
9:20～11:10	町探検
11:20	学校着

### 6 参加学年人員, 参加率

2年児童14名(男7名 女7名) 100%

### 7 引率者の職, 氏名, 事務分担

副校長 佐々木 浮子(児童引率・安全指導)  
教諭 貴田 靖子(児童引率・安全指導)  
支援員 米内 ひとみ(安全指導)  
地域コーディネーター 玉澤 幸子(渉外・安全指導)

### 8 斡旋業者(交通手段等)及びその連絡先

徒歩

### 9 所要経費と拠出方法

- (1) 経費 0円
- (2) 拠出方法 なし

### 10 服装, 持ち物

動きやすい服装, 紅白帽子, 上着, 探検バッグ, 筆記用具, 水筒, デジタルカメラ

11 実施のための安全計画

- (1) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡・相談をする。
- (2) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。
- (3) 事故などの緊急の場合は、学校に連絡し、適切な対応をする。

12 事前、事後指導

- (1) 集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導をする。
- (2) 実施後、見学したことをもとに学習のまとめができるよう指導する。



## 第2学年 生活科町探検 実施計画書

洋野町立中野小学校

### 1 目的

- (1) 自分達で計画を立てて、地域に出かけ、様々な場所を調べたり、地域の場所や人との関わりを広げる。
- (2) 見学先で質問し、メモを取る活動を通して、話す力・聞き取る力を育てる。
- (3) 集団行動のきまりや公共道徳を守って行動する態度を育てる。

### 2 教育課程における位置づけ及び時数

単元名「もっと なかよし まちたんけん」12時間

- ① 学習計画・探検準備… (2時間)
- ② 町探検と次の活動の計画… (4時間)
- ③ 町の人と関わる活動… (3時間)
- ④ 学習のまとめ… (3時間)

### 3 期日

- ②町探検 平成29年 9月15日 (金)
- ③町の人と関わる活動 平成29年 9月26日 (火)

### 4 見学箇所

- (1) Aグループ  
有家さけます孵化場
- (2) Bグループ  
手作り作家水上さん
- (3) Cグループ  
洋野エモーション活動十文字さん

### 5 日程等

9月15日 (金) 「もういちど町探検をしよう」  9:20 学校発 (バスで巡回してもらう) 9:40～11:00 町探検 11:00～11:20 バスで巡回 学校着
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

9月26日 (火) 「まちの人となかよくなるろう」  9:20 学校発 (バスで巡回してもらう) 9:40～11:40 活動 11:45～12:00 バスで巡回 学校着  (エモーションにはこの日は参加しない。 レストラン列車ではなく、その前の列車にするかもしれないとのこと。次の日の土曜日のエモーションに行ける児童は参加する。) <金土日月に列車が運行するらしい>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 6 参加学年人員, 参加率

2年児童14名 (男7名 女7名) 100%

- 7 引率者の職，氏名，事務分担  
副校長 佐々木 浮子（児童引率・安全指導）  
教諭 貴田 靖子（児童引率・安全指導）  
支援員 米内 ひとみ（安全指導）  
地域コーディネーター 玉澤 幸子（渉外・安全指導）
- 8 幹旋業者（交通手段等）及びその連絡先  
町バス
- 9 所要経費と抛方法  
（1）経費 0円  
（2）抛方法 なし
- 10 服装，持ち物  
動きやすい服装，紅白帽子，上着，探検バッグ，筆記用具，水筒，デジタルカメラ
- 11 実施のための安全計画  
（1）朝の健康観察の際，具合の悪い児童がいた場合，家庭に連絡・相談をする。  
（2）救急薬品，児童名簿，笛，携帯電話を携帯する。  
（3）事故などの緊急の場合は，学校に連絡し，適切な対応をする。
- 12 事前，事後指導  
（1）集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導をする。  
（2）実施後，見学したことをもとに学習のまとめができるよう指導する。

1 ねらい

- (1) 地域の水産業であるサケについて理解を深める。(6年)
- (2) 稚魚放流を通して、サケが有家川に戻ってくることを知る。(2年)
- (3) 稚魚放流を通して地域の産業に目を向け、地域の取り組みに誇りをもつ。(全学年)

2 期日 平成29年 4月 24日(月)

生活科・海洋科 (2時間)

3 見学箇所(住所、連絡先等)

種市南漁業協同組合 0194-75-3611

有家地区(サケマス孵化場)

4 単元の指導計画(2・3/4時間)(2・6年生)

単元	目標
オリエンテーション(1時間)	サケの稚魚放流の目的を知る。
稚魚を放流しよう(2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稚魚をどのように放流するか知る。</li> <li>・放流した後の稚魚の様子について観察する。</li> <li>・施設の方の話を聞き、サケについて知る。</li> </ul> (本時2・3/4時間)
調べたことをまとめよう(1時間)	生活科カードや新聞などで、調べたことをまとめる。

5 日程

- 10:00～ サケの積み出し
- 10:40 学校発
- 10:50～11:40 サケマス孵化場にて稚魚放流
- 11:50 サケマス孵化場発
- 12:00 学校着

6 参加学年人員、参加率

第2・6学年 男15名 女16名 計31名 参加率100%

7 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 渡辺 清子(児童引率・児童指導) 教諭 貴田 靖子(児童引率・児童指導)  
 支援員 阿部 厚子(児童引率・保健指導) 地域コーディネーター 玉澤 幸子(渉外)

8 事前・事後指導

- ・集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導を行う。

9 実施のための安全計画

- (1) 事故などの緊急の場合は、校長(副校長)に連絡し、適切な対応をする。
- (2) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。
- (3) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。

1 ねらい

- (1) 地域にある有家浜で、生き物を探すことで、海に親しむ心情を育てる。
- (2) 体験活動を通して、さらなる課題を見付け今後の学習活動の見通しを持つ。

2 期日 平成29年6月12日(月)

海洋科(3年生) (2時間)

3 見学箇所 有家浜

4 単元の指導計画(7・8/16時間)(3年生)

単元	目標
オリエンテーション(3時間)	身近にある有家浜にはどんな生き物がすんでいるのかを考え、海洋科への興味や関心を持つ。
海の生き物を調べよう(5時間)	自分達の住んでいる地域にある有家浜にはどんな生き物がいるのかを予想し、図鑑やPCを活用し調べ学習を行い、興味・関心を持たせる。 実際に体験活動を行い、予想との違いや、新たに発見したことをもとに、次に調べたいことの課題を持たせる。(本時7・8/16時間)
有家浜にはどんな生き物がいるのかな。(7時間)	有家浜の生き物を調べ、自分が興味を持った生き物について、図鑑を作ることを考えさせる。 実際の見学の写真や実物をもとに、「有家浜生き物図鑑」をわかりやすく表現し、その特色を捉えさせる。
発表会をしよう(1時間)	有家浜に棲む生き物について、資料をもとにわかりやすく発表する。

5 日程

9:30 学校発  
 9:40～11:00 有家浜(砂浜散策、生き物搜索、海岸の様子を観察)  
 11:05 有家浜発  
 11:20 学校着

6 参加学年人員、参加率

第3学年 男 13名 女 7名 計20名 参加率100%

7 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 日影 知子(児童引率・生徒指導)  
 支援員 阿部 厚子(安全指導)  
 地域コーディネーター 玉澤 幸子(安全指導・渉外)

8 外部講師等

久慈広域振興局 水産部

9 事前・事後指導

- ・集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導を行う。

10 実施のための安全計画

- (1) 事故などの緊急の場合は、校長(副校長)に連絡し、適切な対応をする。
- (2) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。
- (3) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。

1 目的

(1) 有家浜を歩き、海岸付近の地形等を観察し、これからの海洋学習への意欲を高める。【3年】

有家浜を歩き、これまで学習したことを3年生に伝えるとともに、これからの海洋学習したいことを考える。【4年】

(2) 異学年との関わりを通して、互いの交流を深める。

(3) 集団行動のきまりや乗り物の乗り方のマナーを守って行動する態度を育てる。

2 復興教育との関連

【生きる】②自然との共存

自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念をもつ。

3 教育課程における位置づけ及び時数

単元名「みちのく潮風トレイルから海を見よう」(全5時間)

- ・有家浜の生き物発表会……………第1時
- ・みちのくトレイルを歩こう  
オリエンテーション……………第2時
- みちのくトレイルを実際に歩こう…第3・4時(本時)
- 振り返り……………第5時

4 期日

平成29年6月6日(火)

5 見学箇所(住所、連絡先等)

みちのく潮風トレイル(原子内→小子内防潮堤→有家駅間)

6 日程等

- 8:40 学校発
- 8:50 原子内バス停付近到着
- 8:50 みちのく潮風トレイル 散策(9:40まで)
- 10:00 有家駅から乗車
- 10:10 学校着

7 参加学年人員、参加率

3年児童20名(男13名 女7名)  
4年児童16名(男6名 女10名) 100%

8 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 日影 知子(児童引率・安全指導)  
教諭 中居 ゆかり(児童引率・安全指導)  
講師 柳杭田 知恵子(児童引率・渉外・安全指導)  
支援員 阿部 厚子(児童引率・記録・安全指導)

9 斡旋業者(交通手段等)及びその連絡先

小子内地区スクールバス 宿戸小学校 電話:0194-65-4001

10 所要経費と拠出方法

- (1) 経費 0円
- (2) 拠出方法 なし

11 服装、持ち物

- (1) 動きやすい服装、紅白帽子、上着、濡れても良い運動靴

(2) 探検バッグ, 筆記用具, 水筒, デジタルカメラ

12 実施のための安全計画

(1) 朝の健康観察の際, 具合の悪い児童がいた場合, 家庭に連絡し, 参加・不参加の相談をする。

(2) 救急薬品, 児童名簿, 笛, 携帯電話を携帯する。

(3) 事故などの緊急の場合は, 学校に連絡し, 適切な対応をする。

13 事前, 事後指導

(1) 集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導をする。

(2) 実施後, 感想を交流し合うことで学習のまとめができるよう指導する。

1 目的

- (1) 有家川の水質に興味をもち、水生生物を通して水質を調べる。
- (2) 実際に水生生物を採取する活動を通して、調べる力・聞き取る力を育てる。
- (3) 集団行動のきまりや公共道徳を守って行動する態度を育てる。

2 教育課程における位置づけ及び時数

海洋科：単元名「水の旅～水・海・川」（15/30時間）

3 期日

平成29年8月24日（木） 雨天順延

4 見学箇所（住所，連絡先等）

中野有家川

5 日程等

9：20	学校発
9：30～10：30	有家川調査
10：40	学校着

6 参加学年人員，参加率

4年児童16名（男6名 女10名） 100%

7 引率者の職，氏名，事務分担

講師 柳杭田 知恵子（児童引率・渉外・安全指導）  
 支援員 阿部 厚子（児童引率・安全指導）

8 幹旋業者（交通手段等）及びその連絡先

なし

9 所要経費と拠出方法

- (1) 経費 0円
- (2) 拠出方法 なし

10 服装，持ち物

- (1) 半袖・短パン・長靴か濡れても良い靴(川の水の量により判断)
- (2) 水生生物下敷き，水筒，虫取り網，トレー，デジタルカメラ

11 実施のための安全計画

- (1) 朝の健康観察の際，具合の悪い児童がいた場合，家庭に連絡し，参加・不参加の相談をする。
- (2) 救急薬品，児童名簿，笛，携帯電話を携帯する。
- (3) 事故などの緊急の場合は，学校に連絡し，適切な対応をする。

12 事前，事後指導

- (1) 集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導をする。
- (2) 実施後，学習のまとめができるよう指導する。

13 その他

- ・ 県北広域振興局 保健福祉環境部環境衛生課に連絡・依頼をし，実施時にアドバイザーとして参加していただく。
- ・ 学習ボランティアに連絡・依頼をし，安全に調査ができるよう参加していただく。  
 (H29年度は、2名参加)

1 目的

- (1) 植林体験を通じて、森ができるには長い年月・継続的な世話が必要であることがわかるとともに森と海のつながりを理解する。
- (2) 水の循環を理解し、海を大切にしようとする態度を育てる。
- (3) 自分たちの生まれ育った地域に誇りを持たせる。

2 教育課程における位置づけ及び時数

海洋科：単元名「水の旅～水・海・川」（20/30時間）

3 期日

平成29年10月13日（金） 雨天時：未定

4 植林場所（住所、連絡先等）

未定

5 日程等

13：10	学校発
13：25	開会行事
13：30～14：40	カラマツ苗200本植林
14：40～15：00	講義
15：00	閉会行事
15：15	会場発
15：30	学校着

6 参加学年人員、参加率

4年児童14名（男6名 女8名） 100%

7 引率者の職、氏名、事務分担

講師 柳杭田 知恵子（児童引率・渉外・安全指導）

支援員 阿部 厚子（児童引率・安全指導）

8 幹旋業者（交通手段等）及びその連絡先

なし

9 所要経費と拠出方法

(1) 経費 0円

(2) 拠出方法 なし

10 服装、持ち物

(1) 中野小運動着長袖・長ズボン、長靴、軍手、紅白帽子、タオル、探検バッグ、筆記用具

11 実施のための安全計画

(1) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。

(2) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。

(3) 事故などの緊急の場合は、学校に連絡し、適切な対応をする。

12 事前、事後指導

(1) 集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導をする。

(2) 実施後、学習のまとめができるよう指導する。

13 その他

共催 (有) 丸大県北農林

後援 県北広域振興局林務部 久慈地方木材青壮年協議会 (株) 野田造林

岩手県緑化推進委員会洋野支部

協力 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター

八戸水産科学館マリメント



1 ねらい

- (1) 川と海に生きる動植物の体や生活の違いや、自然への適応の様子などを学ぶ。
- (2) 自由研究の進め方やテーマの見つけ方など、今後の研究の助言を得る。
- (3) 新しい学習指導要領における「自主的・主体的で深い学び」について海洋教育の視点から学ぶ。

2 期日 平成29年 11月 7日(火)

海洋科 2時間 教職員への講話 1時間

3 場所(住所、連絡先等)

洋野町立中野小学校(洋野町中野 1-90-5 電話:0194-67-2107)

4 指導計画(2時間)(4・5・6年生)

時間	目標
5校時 13:45～ 14:30	第6学年 ・淡水や海水に住む動植物の体の違いについて知る。 ・自然への適応の仕方を知る。
6校時 14:35～ 15:20	第4・5・6学年 現在進めている研究について助言を得る。 冬休みの研究や来年度の研究の進め方について、どんな方法やテーマがあるか学ぶ。
研修会	職員対象研修会「新学習指導要領と海洋教育」

5 日程

13:45～14:30 5校時:6年生への授業  
14:35～15:20 6校時:4・5・6年生への授業  
15:30 児童下校  
15:45～16:40 職員研修会「新学習指導要領と海洋教育」

6 参加学年人員、教職員

5校時 第6学年 男8名 女9名 計17名  
6校時 第4・5・6学年 男20名 女27名 計47名

7 担当者の職、氏名、事務分担

教諭 渡辺 清子(海洋教育担当、6学年担任) 教諭 阿部 正文(研究主任、5学年担任)  
講師 柳杭田 知恵子(4学年担任)

8 児童への事前・事後指導

- ・研究を進めるにあたっての疑問やもっと知りたいことを考えておく。
- ・冬休みの研究に向け、テーマの絞り込みをしていく。
- ・卒業論文のための追加研究を進める。

1 目的

- (1) 地域にある海、川の大切な水産資源を守り、活用する採卵を体験する
- (2) 来年度の稚魚の放流に向けて自分たちが育てているという実感をもつ。
- (3) 社会科・水産業と関連させながら、海とともに発展してきた町であること実感するとともに、持続的発展的に共生共存していこうとする心情を養う。

2 教育課程における位置づけ 海洋科 「おかえりなさい、また来てね」

3 単元の指導計画 (2.3/6 時間)

学習内容	目標
オリエンテーション (1 時間)	今までのサケの体験を通して、サケの生態や有家川にもどる理由などを、地域海環境をもとにして学習していくことを知る。
サケ孵化場見学、採卵体験 (2 時間)	サケの採卵体験をする。 サケの生態について聞いて調べる。
サケについての分析、整理 (2 時間)	サケが地域にもどってくるための環境の在り方やサケの生態について新聞にまとめる。
サケの学習をふりかえる。(1 時間)	まとめた新聞を見せ合い、友達からも知識を得て、ノートに記録する。 学習感想や今後生かしていきたいこと、地域の海洋環境への思いを書く。

4 期日 平成 29 年 10 月 16 日 (金)

5 見学箇所 有家サケマス孵化場

6 日程

時刻	
10 : 20	中野小 発
10 : 30~12 : 00	サケマス孵化場 着
12 : 00	サケマス孵化場 発
12 : 10	中野小 着

7 参加学年人員、参加率

第5学年 男6名 女8名 計14名 参加率100%

8 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 阿部正文 (児童引率、生徒指導)

特別支援員 玉澤幸子 (地域コーディネーター)

9 所要経費と拠出方法

- (1) 経費 0円 (2) 拠出方法 なし

10 交通手段 町バス

11 持ち物

探検バック、ノート、筆記用具、水筒、ハンカチ、ティッシュ、カメラ（引率者）

12 実施のための安全計画

- (1) 事故などの緊急の場合は、校長（副校長）に連絡し、適切な対応をする。
- (2) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。
- (3) 救急薬品、児童名簿、携帯電話を持参する。
- (4) 事前に現地に連絡しておく。

13 事前・事後指導

- (1) 集団行動の規律を守って安全に行動できるようにする。
- (2) 実施後、疑問点や知りたい事について見学で調べたことをまとめる。

1 ねらい

- (1) 地域の水産業について知る。
- (2) 地域の特産品であるウニについて理解を深める。
- (3) 栽培漁業について知る。
- (4) 漁業関係者の特産品や仕事に対する思いを知る。

2 期日 平成29年 7月 5日 (水)

海洋科 (2時間)

3 見学箇所 (住所、連絡先等)

岩手県栽培漁業協会 (株) 種市事業所 65-4750

4 単元の指導計画 (2・3/8時間) (5・6年生)

単元	目標
オリエンテーション (1時間)	特産品であるウニについて知っていることを確認する。また、さらに深めたいことを確認する。
ウニの栽培の様子を調べよう (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニの生育について知る。</li> <li>・ウニの栽培について知る。</li> <li>・特産品の流通について知る。</li> <li>・洋野町の水産業について関心を持つ。</li> <li>・地域の特産品に対する思いを知る。</li> </ul> <p>(本時2・3/8時間)</p>
調べたことをまとめよう (1時間)	新聞・パンフレット形式で、調べたことをまとめる。

5 日程

- 9:30 学校発
- 9:50～10:50 種市栽培漁業センター見学
- 11:20 学校着

6 参加学年人員、参加率

第5・6学年 男14名 女17名 計31名 参加率100%

7 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 渡辺 清子 (児童引率・児童指導) 教諭 阿部 正文 (児童引率・児童指導)  
 支援員 阿部 厚子 (安全指導) 地域コーディネーター 玉澤 幸子 (安全指導・渉外)

8 事前・事後指導

- ・集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導を行う。

9 実施のための安全計画

- (1) 事故などの緊急の場合は、校長 (副校長) に連絡し、適切な対応をする。
- (2) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。
- (3) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。

- 1 ねらい
  - (1) 地域の水産業について知る。
  - (2) 地域の特産品であるウニについて理解を深める。
  - (3) 特産品の流通を知る。
  - (4) 漁業関係者の特産品や仕事に対する思いを知る。

2 期日 平成29年 7月 21日 (金)

海洋科 (2時間)

3 見学箇所 (住所、連絡先等)

種市南漁業協同組合 0194-75-3611

有家地区 (サケマス孵化場)

4 単元の指導計画 (5・6/8時間) (5・6年生)

単元	目標
オリエンテーション (1時間)	特産品であるウニについて知っていることを確認する。また、さらに深めたいことを確認する。
ウニの収穫の様子を調べよう (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニがどのように収穫され、どのように加工されているのかを知る。</li> <li>・作業の大部分が手作業で行われていることから、作業の大変さや苦勞を理解する。</li> <li>・服装や道具から、衛生に十分気を付けている人々の様子を確認し、食に関わる仕事について理解を深める。</li> <li>・洋野町の水産業について関心を持つ。</li> <li>・地域の特産品に対する思いを知る。</li> </ul> <p style="text-align: center;">(本時5・6/8時間)</p>
調べたことをまとめよう (2時間)	新聞・パンフレット形式で、調べたことをまとめる。

5 日程

8:40 学校発

8:50～9:50 有家地区見学 (サケマス孵化場)

10:00 学校着

6 参加学年人員、参加率

第5・6学年 男14名 女17名 計31名 参加率100%

7 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 渡辺 清子 (児童引率・児童指導) 教諭 阿部 正文 (児童引率・児童指導)

支援員 阿部 厚子 (安全指導) 地域コーディネーター 玉澤 幸子 (安全指導・渉外)

8 事前・事後指導

- ・集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導を行う。

9 実施のための安全計画

- (1) 事故などの緊急の場合は、校長 (副校長) に連絡し、適切な対応をする。
- (2) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。
- (3) 救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。

1 ねらい

- (1) 魚市場や水産加工場を見学することで、自分たちの生活と海とのつながりを考える。
- (2) 5年生社会科で学習した第一次産業、第二次産業のつながりを確かめるとともに、海と産業とのつながりを考える。
- (3) 6年生理科で学習する大地のつくりに関わり、青森県南部から岩手県北部にかけての海岸部を通して、自分たちが生活している場所と海とのつながりを考える。

2 期日 平成29年 11月 1日 (水)

海洋科 (4時間)

3 見学箇所 (住所、連絡先等)

①八戸第3魚市場 八戸市大字白銀町字三島下 101 電話 0178-33-2115 (農林水産部)

FAX0178-33-2117

②マルヨ水産 八戸市築港街 1-1-4

電話 0178-33-1161

FAX0178-34-3111

③種差海岸

4 単元の指導計画 (2. 3. 4・5/6時間) (5・6年生)

単元	目標
オリエンテーション (1時間)	社会科・理科と関連付け、水産業や大地のつくりについて振り返る。
水産加工場と種差海岸を調べよう (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸魚市場で八戸の水産業について知る。</li> <li>・マルヨ水産で水産加工業について知る。</li> <li>・生産された製品の流通について知る。</li> <li>・種差海岸の大地の作りについて知る。</li> <li>・洋野町との共通点と違いを見つける。</li> </ul> <p>(本時2・3・4・5/6時間)</p>
調べたことをまとめよう (1時間)	新聞・パンフレット形式で、調べたことをまとめる。

5 日程

- 8:30 学校発
- 9:30～10:30 八戸第3魚市場見学
- 10:45～11:45 マルヨ水産見学
- 11:50 マルヨ水産発
- 12:10～13:20 種差海岸着 (昼食休憩)
- 13:30 種差海岸発
- 14:15 学校着

6 参加学年人員、参加率

第5・6学年 男14名 女17名 計31名 参加率100%

7 持ち物・服装

○水筒、弁当、筆記用具、敷物、リュック、雨具

○動きやすい服装、運動靴、帽子、上着

#### 8 引率者の職、氏名、事務分担

教諭 渡辺 清子（児童引率・児童指導） 教諭 阿部 正文（児童引率・児童指導）

支援員 阿部 厚子（安全指導）

#### 9 事前・事後指導

・集団行動の規律を守って安全に行動できるように事前指導を行う。

#### 10 実施のための安全計画

（1）事故などの緊急の場合は、校長（副校長）に連絡し、適切な対応をする。

（2）朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。

（3）救急薬品、児童名簿、笛、携帯電話を携帯する。

#### 11 その他

（1）雨天時の昼食場所として種差小学校をお借りできないか確認する。

第2回 海洋教育こどもサミットinひろの  
平成29年度 洋野町海洋教育事業「海はともだち」 参加計画

平成29年7月26日  
洋野町立中野小学校 海洋教育担当

1 ねらい

- ・海の恵みを享受しながら、海とともに生きることとはどのようなことなのか、洋野町の子どもたちに、その歴史と文化に目を向けさせ、自分たちの生まれ育った地域に誇りをもたせる。
- ・東北各地で行われている「海洋教育」の実践や研究を児童・生徒が紹介し合い、意見交換や交流をすることで、地域理解や相互理解を深め「海洋教育」に対する意欲と学びの質の向上を図る。

2 期日

平成29年8月9日(水)

3 見学箇所(住所, 連絡先等)

- (1) 洋野町民文化会館 0194-65-5411  
(2) 種市勤労青少年ホーム 0194-65-3933

荒天時  
拡大課外授業  
洋野町民文化会館

4 参加対象

中野小5・6年児童31名(男14名 女17名)  
5・6年担任

5 児童生徒の交通手段

町バス

6 日程

- 7:40 中野中学校集合  
7:50 中野中学校発  
8:25 洋野町民文化会館着  
9:00~9:15 開会行事  
9:15~9:45 海の哲学対話①  
9:55~11:20 実践発表・学びの交流  
11:30~12:30 海の哲学対話②  
12:30~12:35 総括  
12:35~12:45 閉会行事  
※午前の部終了  
13:10 洋野町民文化会館発  
13:20 勤労青少年ホーム着  
13:20~13:30頃 昼食  
14:00~15:30 乗船体験及び課外活動  
15:45 勤労青少年ホーム発  
16:15 中野中学校着

荒天時  
13:30 洋野町民文化会館集合  
14:00 拡大課外授業  
15:00 質疑応答  
15:30 終了  
15:45 洋野町民文化会館発  
16:15 中野中学校着

7 服装, 持ち物

- (1) サミット: ジャージではない服, はき慣れた履物, 筆記用具, 昼食  
(2) 海はともだち: 動きやすい服, タオル, 帽子, 筆記用具, 水筒, ビニール袋2枚  
※午前と午後の服装は同じで構いません。乗船体験の際に濡れる可能性があります。  
※昼食時間が非常に短くなっています。昼食はおにぎりの準備をお願いします。また, 保冷剤を使用し、食中毒予防をお願いいたします。



1 ねらい

町内小・中学校の児童・生徒及び指導者等を対象に、「海洋」に関する研究発表及び教科におけるモデル授業の提案を通して、学力向上の視点・方策等を探り、町内各校の海洋教育の促進に資する。

2 期日

平成30年2月20日（火） 13:15～15:45

3 会場（住所、連絡先等）

洋野町民文化会館 0194-65-5411

4 参加対象

中野小6年児童17名（男8名 女9名）

6年担任・支援員

5 児童生徒の交通手段

町バス

6 日程

11:00～11:30	学校発・文化会館着
12:00～12:15	リハーサル
12:20～12:45	昼食
13:00～13:10	受付
13:15	開会行事
13:25～14:35	研究発表
14:35～14:45	休憩
14:35～15:35	モデル授業
15:35～	閉会行事
15:55	文化会館発
16:20	学校着・下校

7 服装, 持ち物

(1) ジャージではない服, はき慣れた履物, 筆記用具

8 引率

支援員 阿部厚子（児童指導）

9 実施のための安全計画

(1) 事故などの緊急の場合は、校長（副校長）に連絡し、適切な対応をする。

(2) 朝の健康観察の際、具合の悪い児童がいた場合、家庭に連絡し、参加・不参加の相談をする。

(3) 救急薬品、児童名簿、携帯電話を携帯する

# 実 践 記 録

学年	活動名 (時数)
1	サンドクラフトだいさくせん
実施期日	平成29年 9月 7日 (木)
目標との関連	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

1 活動のねらい

- ・砂遊びをしたり、体を動かす活動をしたりすることで、海に親しむ心情を育てる。
- ・体験を通して地元の海を大切にしようという態度を育てる。
- ・体験活動を通して、さらなる課題を見付け今後の学習活動の見通しを持つ。

2 活動計画 (単元計画)

単元	目標
オリエンテーション (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海で2回目の遊びをする計画をたてる。(1年)</li> <li>・有家浜の特徴を考えながら、どんなことなら遊べるか考える。</li> </ul>
夏だ あそぼう 水で あそぼう (本時2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいな砂地でサンドクラフトをすることで、海の環境に親しみ、夏を楽しむ。</li> <li>・自分たちで考えた遊びで協力しながら遊ぶことができる。</li> </ul>
学びを交流しよう (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に遊んでみたり、見たことや触ったりしたことなど、五感を通して学んだことを交流し合う。</li> <li>・地域の海に再び行ってみたい、遊びたい、環境をきれいなまま保ち続けたいという気持ちを持ち、海洋科「海に親しむ・海を知る・海を守る」ことにつなげる。</li> </ul>

3 活動について

○目標4項目 (親しむ、知る、守る、利用する) との関連について

- ・地元の海について興味をもち、海の様子を知る。
- ・砂遊びを通して、海の環境に親しむ。
- ・海の音や香り、砂の感触、水の感触等五感を使って海を楽しむ。

○活動内容の概要

生活科の「なつだ あそぼう」の小単元「みずであそぼう」の発展教材として単元を開発した。砂浜を大きな砂場と見立てて、砂場と有家浜の砂の違いを見つけ、感じながら、子供達の創意工夫に溢れたサンドクラフト活動を行った。

○活動している時の子どもたちの様子

学校での砂場での活動を通して、砂遊びの楽しさを実感することができた。しかし、水が近くで確保できないこと、活動場所に限りがあることも体験することができた。そこで、「もっと広くて、砂もたくさんある場所はみんなの近くにはないかな？」と考えさせた。子供達は、1学期の有家浜清掃の活動を思い出しすぐに、「砂浜」と発想することができた。

そこで、海の砂と、砂場の砂を実際に触らせてみて、「砂場の砂はさらさら。」「海の砂はギュッとしてる。」「海の砂はすこししめっている」など子供達は感触や見た目の違いを見つけていった。

実際にどんなものが作れるか想像を広げて設計図を作成した。手で触れてみたこと、砂浜という広い場所であることから、砂場での活動よりも子供達の作品は大きく、



たくさんのアイデアが盛り込まれていった。

実際に有家浜で活動を行うと、砂の特徴を活かし、高くしたり、また2人で協力しながら大きくしていく姿が見られた。近くで海に注ぐ小さな川があることから、水もすぐに使え時間いっぱい子供達は活動することができた。活動が終わる頃には、砂浜に1年生の街を作り上げることができた。砂浜での活動を存分に楽しむことができた。



活動を終え、学校へ戻る頃には潮が満ち始め、子供達の作品の手前にまで迫っていた。さっきまで波打ち際が遠かったのに、もう作品を崩そうとする近さに波が来ていることに海の不思議さを感じ、さらに海について関心をもってきたようだ。



#### ○子どもたちの変化など

- ・今回の学習を通して、地元には海があり、楽しい場所であることを知ることができた。実際休日に海へ遊びに行ってみたり、エモーションに参加したりする児童も見られるようになった。
- ・有家浜での活動を通して、海に興味をもってきた。2年生の生活科の学習、生き物調べや、町探検への意欲も高まっている。

#### 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

##### ○反省は、成果を含む

- ・海洋教育に関連させ、生活科として新しい単元を開発した。今後手直しをしながら単元として充実させていく。
- ・2年生生活科との関連をはっきりさせ、2学年で重複する活動を行わないように注意していく。
- ・有家浜での活動は、砂遊び以外にもまだまだ生活科との関連で考えられる。年計を見て単元を開発していく。(四季による海の様子の違い等)
- ・海での活動は多くの大人の目で安全に配慮する必要がある。地域コーディネーターや地域人材を積極的に活用していく。

学年	活動名 (時数)
2 学年	生活科「もっとなかよし まちたんけん」
実施期日	平成29年9月15日、26日
目標との関連	親しむ 知る 守る <u>利用する</u> (複数選択可)

1 活動のねらい

生活科の学習として、中野・有家地域の場所や人々に質問したり一緒に何かをする活動を通して、地域で生活したり働いている人々の地域への思い、自分たちの生活との関わりや地域よさ、人々と適切に接することができるようになった自分たちのよさに気づき、地域の人々に親しみや愛着をもつ。

2 活動計画 (単元計画)

町探検の準備をしよう (3)	・課題づくり ・活動の計画 ・グループ作り
町探検をしよう① (3)	・町探検をして見学、質問をする ・探検の報告をする
一緒に活動しよう (4)	・活動の計画 ・探検に行き体験活動をする ・探検の報告をする
まとめ (3)	・1年生への発表内容を考え、発表する

3 活動について

○目標4項目 (親しむ、知る、守る、利用する) との関連について

海洋教育の4つの視点の中の、「利用する」に関わって単元を進めていく。本校の海洋教育の低学年の「利用する」目標は、「地域の人々の生活や仕事、季節の変化に気づき、海と関わり暮らす人々とふれあおうとする。」とある。単元を通し、海に関わる仕事や活動をしている人々との関わり合いを通して、海と関わり暮らす人々とふれあうことを構成していく。

○活動内容の概要

<p>《町探検のグループ分けと活動内容》</p> <p>☆A グループ→有家さけますふ化場 (澤尻さん)</p> <p>1 回目の活動内容・・・ふ化場の見学、質問。 2 回目の体験活動・・・帰ってきた鮭の重さや大きさを計測する、うろこの観察をする 等。</p> <p>☆B グループ→洋野エモーション活動をしている地域の方 (十文字さん)</p> <p>1 回目の活動内容・・・旗の見学、エモーション活動のお手伝い (旗を立てるなど)、質問。 2 回目の体験活動・・・一緒に旗を作る、エモーション活動をする。</p> <p>☆C グループ→海の素材を使った手作り作家 (水上さん)</p> <p>1 回目の活動内容・・・作品を見せてもらう、質問、シーグラスを拾う。 2 回目の体験活動・・・拾ったシーグラスで工作をする。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## ○活動している時の子どもたちの様子と変化

### (1) 洋野エモーション

有家のエモーションの活動をしている十文字さんに依頼し、活動をするきっかけや有家浜の津波被害の様子を話していただいた。十文字さんから洋野エモーションの創始者である宮本さんを紹介していただき、交流しながら活動することができた。レストラン列車を利用している人が、遠くの地域から来ている人ばかりということを知り、海を通して活動が広がっていることに驚いていた。



### (2) シーグラスを使った工作

手作り作家である水上さんと、1回目の探検でシーグラスを拾い、2回目の体験活動で工作を作った。シーグラスは30年以上もかけて漂った瓶のかけらであること、波の力などで表面が削れて滑らかになることを聞き、海の奥深さを実感していた。



### (3) さけますふ化場の見学

ちょうど鮭が戻ってきた時期と重なり、鮭の生体を詳しく観察させていただいた。5月に鮭の放流をしていたこともあり、大変興味深く活動していた。有家川に放流された鮭の稚魚がベーリング海まで行き、5年かけて大きくなって帰ってくることを学習し、大変驚いていた。



## 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

秋の町探検は、海に関わる人や施設に限定したため、より地域の海を身近に感じながら活動することができた。

ただ、限定したため活動の曜日の計画が難しかった。(エモーションは金～月曜日) また、今回は実施できなかったが、丸大林業も植林などの活動をしており、見学場所に検討していたが、都合が合わなかった。夏休み中には見学場所を決定・交渉し、早めに計画していく必要がある。年度当初にどの時期に活動を入れるか見通しをもっておくとよい。また、活動場所が分散すると、指導者が足りなくなるため、ボランティアさんに協力を要請するなど複数の大人の目で見ながら活動することが必要である。

学年	活動名 (時数)
3年	有家の海の生き物図鑑を作ろう 26h
実施期日	平成29年 5月 ~ 11月
目標との関連	親しむ 知る 守る 利用する

1 活動のねらい

- (1) 地域にある有家浜で生き物を探すことで、海に親しむ心情を育てる。
- (2) 体験活動を通して、さらなる課題を見つけ、今後の学習活動の見通しをもつ。
- (3) 海の生き物を採集し、その特徴を調べ、地元の海の生態系を理解する。

2 活動計画

過程	学習内容
つかむ (4h)	4年生から海洋学習について学び、単元の学習の見通しをもつ。
調べる (14h)	有家浜にいる生き物を予想する。 有家浜の生き物調べをする。 有家浜の生き物の観察・調べ学習をする。
まとめる (6h)	有家浜の生き物図鑑を作る。
ひろげる (2h)	2年生に向けて有家浜の生き物について発表する。

3 活動について

はじめに、海洋科オリエンテーションとして、4年生が昨年度作成した「有家浜生き物図鑑」の発表を聞いた。ギンポ、ミドリイソギンチャクなどあまりなじみのない生き物の発表に楽しみながら質問をして、自分達も海に捕まえに行きたいという意欲を持つことができた。

次に、有家浜で見つかりそうな生き物について予想を立てた。家庭では有家浜に限らず海に生き物を捕まえに行った経験のある子どもは少なかった。そこで、昨年度1・2年生合同の海洋学習でサケ・マス孵化場前の浜で磯遊び・磯そうじを行った経験を思い出しながら予想した。また、図書室の図鑑で、見たことや聞いたことのある魚介類や海草を探したり、その生息地はどこかを調べて有家浜にもすんでいそうか、話し合ったりした。その際に、洋野町から見える海は「太平洋」と呼ぶこと、海は一つだけれどその場所によっていろいろな名前がつけられていることなどを初めて知った子どもが多かったし、「本州北部」など地理的な事からも学ぶ良い機会となった。

実際の有家浜探検では、自分達の予想した生き物と4年生が図鑑で発表してくれた生き物との全部を見つけ出そうと、意欲的に活動する姿が見られた。また、安全に楽しく体験できるように、生き物についてその場で教えていただけるようにと事前に依頼しておいた「海の先生」種市南漁協の澤尻さん、県北広域振興局水産部の方々、有家婦人会の橋場さん達が活動を手厚くバックアップして下さった。最初は、ごつごつした岩場やすべりやすい海草、急に現れる海底のくぼみなどにおっかなびっくりの子ども達であったが、海の先生達が生き物の名前や探し方、安全な歩き方などを教えて下さったので、次第にコツをつかんで石をひっくり返したり岩場の隙間を手探りしたりと、生き生きと活動することがで



きた。また、時間の経過と共に潮位が変化することに気づき、そのわけを海の先生に尋ねていた子もいた。どの子も海での活動の楽しさを存分に味わい、沢山の事を学んでいた。



捕まえた生き物については、学校に帰ってから写真をとったり観察日記を書いたりして記録を残した。さらに名前のわからないものについて話し合ってからさらに図鑑やインターネットで調べようという意欲をもつことができた。そして、子ども達から「生きていうちに海に帰してやりたい」という声上がり、放課後に教師がもとの有家浜に戻してくることとなった。捕まえた生き物の命の尊さに気づいたことに、大きな心の成長を感じた。海で触れ合い動いたり逃げようとしたりするのを手の平で感じたからこそ生まれたやさしい心であると思った。

オリエンテーションで見せてもらった4年生の生き物図鑑と同じくらい、多くの種類の生き物を見つけることができたので、一人1種類の生き物図鑑作成となった。作成の際は、学校の図書室で調べるだけでなく、進んで家庭のインターネットで調べたり海の生き物にくわしい家族に聞いてきたりする意欲を見せた子が多かった。子ども達の話合いも活発で、とくに形が微妙に似通っているカニ類の名前がようやく判明した時は、みんな歓声をあげて喜んだ。そして、海の生き物の種類の多さに改めて驚いていた。

発表会は、来年度に初めて海洋科に取り組む2年生に向けて行った。磯遊びで同じような生き物を見つけていた2年生は興味をもって発表を聞いてくれたので、3年生の子ども達も充実感いっぱい発表を終えることができた。また、学習発表会での3・4年生の演目の中で何人かの図鑑を発表する場面を設けた。全校や保護者・地域の人達の前で発表できほめてもらったことも、子ども達の今後の海洋学習への意欲付けになった。

#### 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

- (1) 中学年の海洋学習の始まりとして、3・4年合同で「みちのく潮風トレイル」を歩いた。本来なら5月には行きたかったが、運動会への取り組みとぶつかり6月になってしまった。3年生の有家浜での活動も同じ頃で海の潮位とのかねあいもあり日程調節が難しかった。「潮風トレイル」への取り組みを4月中に行うのが望ましい。
- (2) 「海の先生」としてゲストティーチャーを招き海で教わったことは、子ども達の安全で充実した活動に大変有効であった。とくに、漁協の方や地元婦人会の方のような身近な大人達が海を愛し海のことをくわしく知り海を利用している姿を見せるのは、海との付き合い方の良い手本となると思われる。
- (3) 海洋学習について知ってもらうために、生き物図鑑の発表会は保護者も招いて行う方法が望ましい。今年は既に学習発表会で発表したので校内発表のみで終えた。



学年	活動名 (時数)
4 学年	水の旅～山・川・海～ (17)
実施期日	平成29年8月～12月 〔水質調査：平成29年 8月24日 (木)〕 〔植林体験：平成29年10月13日 (金)〕
目標との関連	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

1 活動のねらい

- (1) 山・川に海における水の循環を知る。
- (2) 水質調査や植林体験など体験活動を通して海を豊かにするにはどのようにすれば良いのか考える。
- (3) 環境の保全・水産資源の確保のための取り組みを理解し、ふるさとに誇りをもつ。

2 活動計画 (単元計画)

	活動内容
事前指導(1)	○オリエンテーション
具体的な活動内容(11)	○有家川水質調査を行う。 ○昨年と比較しつつ、有家川に生息する生物について調べる。 ○川や海の水を豊かにするために植林することを知る。 ○実際に植林体験をし、山・川・海つながりについて話を聞く。 ○下水道・浄化槽講座を通して、海に注ぐ川の水質を守るための施設や仕組みを知る。
事後指導(5)	○学習したことをポスターにし、発表会を行う。

3 活動について

○目標4項目(親しむ、知る、守る、利用する)との関連について

本単元は、主に「知る」「守る」の視点に沿って学習を進めていく。児童は前学年の学習で有家浜に生息している生き物について理解を深めている。本年度は海とつながっている川、そこに流れ込む水を供給している山の働きやつながりについて理解を深め、自分ができることはないか考える学習活動を構成することとした。

○活動内容の概要

- \* 有家川水質調査では、有家川の水質はどのようになっているのか、どのような生物が生息しているか予想し、水質調査を行った。県北振興局の方をアドバイザーとしてお迎えし、実際の調査の仕方について話を聞いた後、ペアごとに活動を行った。
- \* 豊かな海・きれいな川を維持するために植林活動を行っていることを知り、実際に植林体験を行う。その後、植林活動の意義や山・川・海つながりについて講義を受ける。

## ○活動している時の子どもたちの様子

ほとんどの児童が有家川はきれいであると予想をしているものの、有家川に入ったことがある児童はほとんどおらず、体験・理由をもとに予想をすることはできていなかった。台風通過後で増水していたが、教師が川の中の石を渡し、それについている生物について資料を見ながら名前やどんな環境で生きているのかなどを調べさせた。生物の数はそれほど多くはなかったが、きれいな水に生息している生物が多く見られ、一様に喜んでいる様子だった。調査後の感想では、「有家川の水がきれいな水で安心した。」、「川の水が速くないときにもう一度調べてみたい。」などが話された。



植林体験では八木地区の山にカラマツの苗を植えた。植林方法を教えてもらいながら丁寧に作業することができていた。体験後の講義では、40～50年サイクルで伐採・植林を繰り返し、定期的手入れをしながら山を守っていく必要があること、山にたくさんの種類の木があることがたくさんの種類の生物が生息できる環境づくりになることに驚きつつ、メモをとりながら話を聞いていた。



## ○子どもたちの変化など

- \* 児童は、学習前の段階では川の水が海に流れこんでいること、それは山からきていることを知ってはいたが、その仕組みや山を守ることの大切さについて説明することはできなかった。本単元の学習を通して、水が循環していることや人間の手で山を守っていくことが環境の保全・水産資源の確保につながることを理解することができた。
- \* 有家川や洋野町の海がきれいであること・水産資源が豊富であることを知り、中野(洋野町)を誇りに思い、これからも環境を守るためにできることは何かを考える良いきっかけとなった。

## 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

- \* 1学期始めに海洋科のオリエンテーションとして、3年生と一緒にみちのく潮風トレイルを歩き、今年度の学習の見通しをもたせた。前学年のふり返しをしつつ、防災施設や川の水が海に流れ込んでいるところを見ることで、調べたいこと・学習したいことが明確になるので、来年度も実施したい。
- \* 水の循環の学習は、4年生の理科・社会科にもあることから海洋科との複合単位として今後も進めていきたい。
- \* 外部講師や出前講座、見学学習など専門家の協力を得て学習することで、より学びが深まった。しかし体験だけで終わらぬよう事前指導・事後指導をしっかり行う必要がある。

学年	活動名 (時数)
5 学年	八木漁港・ウニ栽培センター・八戸見学のつながり (16 時間)
実施期日	平成 29 年 7 月 5 日 (水) ~平成 29 年 11 月 1 日
目標との関連	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> 利用する (複数選択可)

1 活動のねらい

- ・地域の漁業について理解を深める。
- ・海と産業のつながりを考える。
- ・携わる人々の思いを知る。

2 活動計画 (単元計画)

	単元	目標
ウニ栽培センター	オリエンテーション (1 時間)	特産品であるウニについて知っていることを確認する。また、さらに深めたいことを確認する。
	ウニの栽培の様子を調べよう (2 時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニの生育について知る。</li> <li>・ウニの栽培について知る。</li> <li>・特産品の流通について知る。</li> <li>・洋野町の水産業について関心を持つ。</li> <li>・地域の特産品に対する思いを知る。</li> </ul>
	調べたことをまとめよう (1 時間)	新聞・パンフレット形式で、調べたことをまとめる。
港 八木漁		社会科「水産業のさかんな地域」の一環として八木漁港見学
八戸見学	オリエンテーション	社会科・理科と関連づけ、水産業について振り返る。
	水産加工場を調べよう	八戸魚市場、マルヨ水産加工業について知る。
	調べたことをまとめよう	新聞・パンフレットで調べたことをまとめる。

3 活動について

○目標 4 項目 (親しむ、知る、守る、利用する) との関連について

- ・地域の海産物の捕獲や栽培、流通、携わる人々の思いを知った。
- ・今後も継続的に獲れるようにウニやアワビを栽培したり、獲りすぎないようにしたりして海洋環境を守るようにしていた。

稚ウニ、かわいい～



## ○活動内容の概要

- ・地域の海洋に関わる産業の実態や、携わる人々の思いを学んだ。
- ・ウニ栽培センターでは、特産のウニがおいしい理由やその栽培方法を学んだ。
- ・八木漁港や八戸魚市場では、地域で獲れる魚介類や捕獲方法、保存方法、せりの様子、輸送方法、加工の様子、携わる人々の思いなどを比較しながら学んだ。

## ○活動している時の子どもたちの様子

- ・説明されたことを熱心にメモして、事前に準備していた自分の問いを解決しようと努力していた。また、質問したいことをしっかりと質問していた。殻むき体験をしたり魚介類を間近で見たりして、印象に残ったようだった。

## ○子どもたちの変化など

- ・社会科で水産業を学んでいる最中から学び終わってからの見学となった。学校内で教科書中心として学んだことを生かし、自分の問いを五感を使ってより深く理解できて意欲的に学習する姿が見られた。また、事後の新聞でのまとめ活動は自分の問いについて分かったことを、事実と感想を交えて、1時間ですらすらと書き上げた。地域の海洋を守り発展してほしいといった思いを書く児童が多かった。

## 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

- ・学校内で学んだことを海へ出かけ、携わる人々とふれあい、地域の海洋の実態を知ることができたことが大きな成果。
- ・地域が海の恩恵を受けていることや、地域にはよい海産物があること、地域の海を守ってきた人々に誇りをもつことができた。
- ・次年度も、5年生社会科の水産業の学習を中心として、同様の校外活動があるとより深い学習ができる。
- ・八木漁港見学は水産業の学習が終わってからだったが、次年度は水産業の学習前に八木漁港見学となる見通し。よって、水産業の単元オリエンテーションで地域の水産業について問いをもち、見学を通して地域海洋の概要をつかめるようにしたい。また、見学で新たな問いが生まれたら、社会科で学んだり、あらためて漁協に問い合わせたり、再度見学したいりして学びを広げ深められればと思う。



いろいろな魚が獲れるんだ～  
すごい、大きい！

八戸見学でのイカ釣り漁船  
数か月海へ出ているの～？すごい！



学年	活動名 (時数)
5・6年	浜清掃・洋野エモーション
実施期日	平成29年 10月 3日 (火)
目標との関連	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

1 活動のねらい

- (1) 地域の海の環境を守る。
- (2) 洋野エモーションの活動を通して、復興への感謝を伝えるとともに地域の方・観光客の方とつながりをもつ。

2 活動計画 (単元計画)

	活動内容
事前指導	○エモーションのための大漁旗づくり
具体的な活動内容	○中学生と合同で浜清掃をする。 ○洋野エモーションを体験する。
事後指導	○活動についての振り返りをまとめる。

3 活動について

○目標4項目 (親しむ、知る、守る、利用する) との関連について

本活動は、中野実践区の取り組みの中で中学校と連携して実施した。毎年中学校では浜清掃を実施していたが、今年度は5・6年生も合同で海の環境を守るという視点で活動した。浜清掃後には、復興への感謝と海への親しみを込めて洋野エモーションを実施した。

○活動内容の概要

- ・ 有家浜清掃
- ・ 洋野エモーション
- ・ 感想発表、写真撮影

○活動している時の子どもたちの様子

まず、洋野エモーションのために一人一枚大漁旗を模した旗を作った。どんな旗にすれば見ている人に感謝を伝えられるか考えながらオリジナル旗を仕上げた。

その後中学校の生徒と合流し、グループに分かれ浜清掃を行った。地域の方も多数参加し、「地域の海を守ろう」という意識をもって活動した。

瓶や缶の他にもビニル紐や袋、漁に使われた網等様々なゴミがあった。ちいさなゴミでも見つけ、積極的に拾う姿が多く見られた。分別の際は地域の方に協力していただき、多くのゴミを拾うことができた。児童は地域の浜にこんな





にゴミが流れついていることに驚きを隠せない様子だった。洋野の海を守ることが他の地域、外国の海まで守ることにつながっていることに気付くことができた。

浜清掃後の洋野エモーションでは、JRの職員も合流し交流を深めながら活動することができた。震災からの復興と、それを支えてくれた方々への感謝の気持ちを伝えようと児童生徒全員が笑顔で一生懸命旗を振ることができた。列車のお客さんの笑顔を見て、児童も達成感を味わったようだ。



○子どもたちの変化など

中学生と合同で活動ができたことで、中野小中学校区全員の意識を高められたように感じた。特に、「自分たちの地域の海を守ろう」という気持ちが一生懸命活動する姿に表れていた。日頃浜に足を運ぶ回数が少ない児童が多く、海の環境を知るには良い機会となった。また、洋野エモーションへの参加も児童にとって有意義であった。震災を風



化させないよう、活動をつないだり体験を語り継いだりすることがこれからの洋野の児童に必要なことと考える。観光客とつながることで、洋野の魅力を伝える機会にもなった。

#### 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

○課題

- ・天候に左右される活動であること。実施できない場合の判断と連絡の調整を確認する。
- ・天候により危険を伴う活動であるため、グループ分けや活動範囲を工夫し安全面に配慮する。

学年	活動名 (時数)
6年	海を通してつながろう
実施期日	平成29年 10月 3日 (火)
目標との関連	親しむ 知る 守る 利用する (複数選択可)

1 活動のねらい

- (1) 海洋学習を実施している学校との交流を図る。
- (2) 他地域の実践から、新たな海洋学習の視点を見つける。

2 活動計画 (単元計画)

	活動内容
事前指導	○種差小学校との交流授業の目的と内容を考える。
具体的な活動内容	○考えた内容について、さらに実施可能な活動を考える。 ○活動の準備をする。 ○種差小学校との交流会を実施する。
事後指導	○活動についての振り返りをまとめる。

3 活動について

○目標4項目 (親しむ、知る、守る、利用する) との関連について

本単元は、交流学习を通して海に親しむ・海を知る内容で構成した。他校との交流学习は初めてであり、各学校の海洋学習の取り組みについて知るところから学習を進めた。また、海洋クイズ・ゲーム等海洋レクリエーションを通して海に親しむ活動も取り入れた。

○活動内容の概要

- ・各学校紹介
- ・海洋レクリエーション
- ・感想発表、写真撮影

○活動している時の子どもたちの様子

児童は計画から「どうすれば楽しみながら海洋の学習を伝えられるか」について真剣に考えていた。種差小学校の全校児童が来校するという事で、低学年から高学年まで楽しく分かりやすい内容にしたいと話し合いを進めた。その結果、中野小学校の特色である個人研究の紹介と海洋レクリエーションをすることになった。どうすれば楽しいか、何か形に残すことはできないかとアイデアを出し合い、『みんなで作ろう水族館』『魚釣りクイズ』『海洋射的』の3つのレクリエーションを行った。

☆みんなで作ろう水族館

手作りの海の生き物塗り絵を作成し、種差小学校のみなさんに色を塗ってもらい水槽に見立てた大きな色画用紙に貼ってもらった。色画用紙には昆布やワカメ・ウニなど洋野の

海の様子を再現した絵も張っており、全員で一つの海を校のみなさんも次々と塗り絵を完成させ、嬉しそうな顔をしながら水槽に自分の絵を貼っていった。

#### ☆魚釣りクイズ

海洋生物をかたどった画用紙の裏にこれまで学習した中から海洋クイズを書いた。釣った生き物に書かれているクイズに正解するとスタンプがもらえるようにした。自分たちがこれまで学習してきた内容からクイズを作ったため、自分たちにとっては簡単だと思っていた。しかし種差小学校のみなさんには難しい問題であったことに気づき海洋学習の面白さを感じた。

#### ☆海洋射的

海洋生物が描かれた的を準備し、大きさによって点数を変え得点によってもらえるスタンプの数を変えた。ゴム鉄砲も手作り、楽しんでもらうための工夫を凝らした。

すべてのレクリエーションでスタンプがもらえるようになっており、スタンプを全て集めると手作りしおりと手作りバッチをプレゼントすることにした。しおりとバッチも海洋にちなんだ模様して海洋に親しんだ。

#### ○子どもたちの変化など

児童は「楽しませたい」という思いを強く持ち、交流学习に臨んだ。実際に自分たちが準備したレクリエーションを楽しんでもらえたことが達成感につながった。児童の感想の中に、『喜んでもらえたことが嬉しい』というものが多くあった。海洋の学習を通して、他の学校の児童と心も通わせた取り組みとなった。

これまでの海洋学習発表会とは違って、「誰もが楽しく学べる」内容になった。自分たちのこれまでの経験や知識を活用するもので、海洋学習の目指す姿に近づいた。

#### 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

##### ○成果

- ・他校との交流学习をすることで、自分達とは違った海洋学習の視点に気付くことができた。そのことから、次への課題も見つけることができた。
- ・他地域と学習を比べることで、産業の違いや発信の仕方の違いなどに気付くことができた。可能であれば交流学习を続けることで学びの質が高まる。

##### ○課題

- ・日程調整など他校との連絡を密にする必要がある。
- ・会場をどこするかなど、見通しをもった計画を立てる。





学年	活動名 (時数)
6年	わたしたちの教室は洋野の自然と世界一の太平洋
実施期日	平成30年2月4日 (日) 平成30年2月20日 (火)
目標との関連	親しむ <u>知る</u> <u>守る</u> <u>利用する</u> (複数選択可)

1 活動のねらい

- (1) 全国の海洋学習実践を知り、新たな課題をもつ。
- (2) 自分たちの海洋実践を全国へ発信する。
- (3) 全国の海洋拠点校とつながりをもつ。

2 活動計画 (単元計画)

	活動内容
事前指導	○海洋発表の計画を立てる。
具体的な活動内容	○発表内容の資料を準備する。 ○ポスターセッション方式の学習を行う。 ○サミット・カンファレンスに参加する。
事後指導	○活動についての振り返りをまとめる。

3 活動について

○目標4項目 (親しむ、知る、守る、利用する) との関連について

これまでの海洋学習の集大成として全国海洋サミット・洋野町地域カンファレンスに参加することになった。海洋学習の4つの視点から発表内容を構成し、発表をする。特に個人研究についてはそれぞれの伝えたいことを中心にまとめることにした。

○活動内容の概要

全国海洋サミット

- ・パネルディスカッションへの代表児童の参加
- ・ポスターセッション

地域カンファレンス

- ・実践発表
- ・モデル授業への参加

○活動している時の子どもたちの様子

東京大学での全国海洋サミットへの参加が決まり、児童は自分たちの実践で何を伝えればよいか考えた。海洋サミットのテーマ「つながり」をもとに、中野小学校の特色である個人研究と新たに実施した種差小学校との交流について発表することにした。

個人研究チームは自分の研究をもとに質問に答えられるよう詳しく調べ直し準備を進めた。発表資料はなるべく文字を少なくし、写真や絵図、グラフを使って作成した。その資

料を使って受け答えできるように友達と何回も確認をした。

種差小学校チームは活動の概要紹介をした。なぜそのような活動をしたのか活動してみてもう思ったかなど、自分たちの気持ちを発表できるようにした。

自分たちが活動・研究した内容の発表だったため、児童は自信をもって準備を進めた。受け答えも堂々とした様子であった。

全国海洋サミット当日、児童は緊張しながらも東京大学やポスターセッションの雰囲気を楽しんだ。実際にポスターセッションが始まると、自分たちの実践を見てもらおうと自分から積極的に声をかけ、説明をする姿が見られた。たくさんの人との交流を楽しむことができていた。様々な質問に答えたり説明したりする姿から、学びの深まりが感じられた。



洋野町地域カンファレンスでは、海洋サミットの発表をもとに実践発表を行った。ステージを教室に見立て対話している様子を発表した。海洋サミットの経験が生かされ、自信をもって発表することができた。自分たちの学習に自信と誇りをもって臨んだように感じた。モデル授業では学びのつながりを感じたようだった。説明する際のこつも見つけたようだった。



#### ○子どもたちの変化など

当初、発表することが得意ではない児童が多かった。しかし、海洋の学習を進めるうちに発表する楽しさや友達とのやり取りの楽しさを味わうことができた。急に質問されたことに対しても対応することができるようになり、表現力の高まりを感じた。

中学生の実践や他の学校の発表を見ることで、自分達と比較しさらに高めていきたいという意欲をもつこともできていた。

### 4 反省と次年度への引き継ぎ事項

#### ○成果

- ・自分たちの実践を発信する機会となった。発信することで改めて地域について深く考えることができた。
- ・全国の実践を知ることで、自分たちの地域との比較をすることができた。また、自分たちも真似できることはないかと新たな課題を見つけることができた。

#### ○課題

- ・個人研究のテーマの決め方や進め方の共通理解を図る。
- ・サミット等実践発表までの準備の進め方や指導法の確認。

# 資料

1 事前指導 (4, 5, 6 年担任)

- ・窪川教授が海洋生物に詳しい方であることを児童に紹介する。
- ・まだ知らない海洋生物が存在することを知らせたり、自分の自由研究についてもっと深めたい事や普段海洋生物について知りたいことを考えさせたりしておく。

2 本時の目標

- ・海洋生物について理解を深め、興味を高める。
- ・窪川教授から自由研究について質問や意見を伺い、研究を深める意欲と見通しをもつ。

段階	学習内容	備考
つかむ 2分	1 窪川教授へ挨拶 (5年 ) 2 窪川教授の紹介 ( 阿部 ) ・東京大学特任教授 ・海洋生物学 (ナメクジウオ等) 研究 3 課題 海の生き物の面白さを見つけ、これからの研究に役立てよう	司会者：渡辺
深める 40分	4 海洋生物の紹介 (窪川教授) ・5つくらいの海洋生物 あまり知られていない生物、不思議な生態の生物、生態が解明されていない生物 等 ・クイズ形式で児童に問いかけ、考えさせるようにする。 ・児童は紹介を聞きながら質問したいことを考えておき適時質問する。 5 窪川教授と児童の交流 ・自分の自由研究についてもっと深めたいことや普段海洋生物について疑問に思うこと等について窪川教授に質問する。	学習シートにメモ  一人1質問を準備  事前に自由研究題を窪川教授へ送信
まとめ 3分	6 感想発表 (各学年1名) ・分かったこと 興味をもったこと 詳しく知りたいこと 自分の自由研究について参考になったこと 等 7 感謝の挨拶 (6年 )	事前に決めておく

3 事後指導 (宿題)

- ・学習したことを学習シートの感想欄に記入する。  
 興味をもったこと 詳しく知りたい事 自分の自由研究について参考になったこと
- ・海洋生物について学んだことを、何に生かしていきたいか考えさせる。  
 自由研究 海洋科 家庭での自主研究
- ・本時の写真と児童の感想をまとめ、窪川教授へのお礼のお手紙に添付する。(データ送信?)

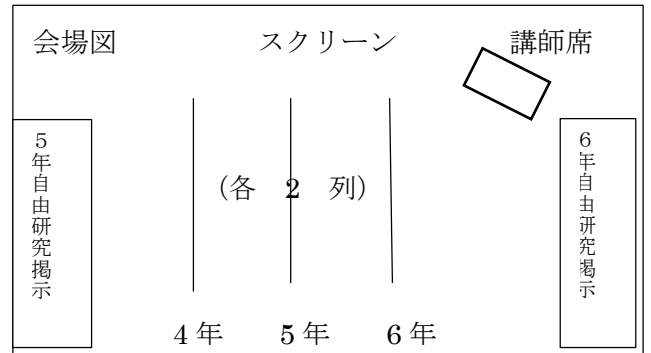
4 持ち物

筆記用具 学習シート 探検バック

5 場所 ホール（前日パイプ椅子準備）

※壁面に夏休みの自由研究を掲示しておく。  
マイク 2 本の準備、パワーポイントを使う場合は  
プロジェクターやスクリーン設置。

6 写真撮影（柳杭田）たくさん撮影する



 **海の生き物 学習シート**

( ) 年 氏名 ( )

学習内容	
課題	海の生き物の面白さを見つけ、これからの研究に役立てよう
海洋生物について  大事なことをメモ しましょう。	
くぼかわ教授 に聞きたい事  海の生き物や海の ことについて	
感想  分かったこと、興 味をもったこと、 くわしく知りたい こと、自分の自由 研究について参考 になったこと、な どについて書きま しょう。	

## 職員対象海洋教育研修会の内容案

### 講話題「海の生き物の魅力」

対象者：本校職員、保護者や地域の方々、他校職員

場 所：ホール（前日にパイプ椅子準備、児童も使用する）

時 間：15：45～16：40

司 会：阿部

撮 影：高学団担任

### 1 ねらい

本校の海洋教育のねらいである「地域の海に誇りと親しみをもち、地域の海と共生共存しようとする心情を育てる」ために、海洋教育に対する職員・地域の方々の見方や考え方を広げ深める。

### 2 講話内容

- (1) 海洋生物の生理生態について探究することの面白さとその意味を考える。
- (2) 海洋生物からわかる海洋環境の実態から、人々の生活・社会が海とどのように関わればよいか考える。
- (3) 海洋教育の可能性と価値について考える。

1 本時の目標

- ・淡水魚と海水魚の体の違いを知る。
- ・海の生き物の不思議にせまる。

2 展開略案

段階	学習内容	備考
つかむ 10	<p>1 学習内容の想起と課題の設定 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川と海の境目はどこなのか、どうなっているのか考えさせる。</li> <li>・生き物の違いや塩分濃度という考えをもとにして、自由研究(淡水魚と海水魚・プランクトン体の違い・海にも川にも住む魚)を想起し、本時課題を設定する。</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">川や湖に住む生き物と海に住む生き物の体の違いを調べよう</span> を設定する。</p> <p>担任：川と海の写真の準備・自由研究の骨子の準備            講師：同程度の大きさの「海水魚・淡水魚」「プランクトン」「鮭等」の写真・VTRを紹介準備と写真への補足説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真</li> <li>・テレビ</li> <li>・PC</li> </ul>
深める 25	<p>2 課題を予想する (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 川や湖に住む魚(淡水魚)も海に住む魚(海水魚)も体の変化はない</li> <li>(2) 体の変化がある</li> <li>(3) 変化のあるものもないものがある(プランクトンには変化なし)</li> </ul> <p>担任：根拠をもとに発表させる。板書(構造的に)            講師：3につながる内容であれば「確認する」</p> <p>3 確かめる (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「淡水魚と海水魚・プランクトンの体のつくり」から大きな体の違いはないことを知る。</li> <li>(2) 「両方に住む魚の体のつくり」から海でも川でも過ごすためには「塩分濃度」を調整することが必要であることを知る。</li> <li>(3) 「どのように調整するのか」について知る。</li> </ul> <p>担任：(1)～(3)その他について講師の先生から説明してもらうように促す。板書。説明のあとに「質問」を促す。            講師：(1)～(3)について児童の発言をもとに説明する(2)(3)については「具体的に」図や写真、あるいは簡易実験で演示するなど理解を促す。</p> <p>3 広げる・深める (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 深海魚との違いはどうなっているのだろうか。</li> <li>(2) 何が違いをつくるのだろうか。</li> </ul> <p>担任：(1)～(2)その他について講師の先生から説明してもらうように促す            講師：(1)～(2)について児童の発言をもとに説明する。「具体的に」図や写真、あるいは簡易実験で演示するなど理解を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自由研究</li> <li>・PC等のICT機器</li> </ul>
まとめる 10	<p>4 学習のまとめ・ふりかえり (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) まとめ</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">淡水魚と海水魚の体に大きな違いはないが、生活するためには塩分の濃度を調整する機能がある。また、深海魚には水圧を調整する機能がある</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(3) ふりかえりと感想</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだこと、さらに知りたい・調べたいことを書き、これからの学習や研究につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真, PC等</li> </ul>

～海洋教育と特別な教育課程「海洋科」の実践から～

自分たちの生まれ育った地域に  
喜びと誇りをもち、たくましく生きる児童の育成



岩手県洋野町立中野小学校  
校長 佐々木秀善



# 実践上の工夫

## 1 海洋科の学習指導

### 海洋科

### 個人研究

2年間 興味 繰り返し  
 観察・実験 取材 見学  
 まとめ・発表・もう一度調査  
**卒業論文作成**

学区にある有家海岸

### 学年の学習テーマと内容

1・2年生:海はともだち・海の四季

3年生:海と地域 何がいるかな

・有家浜の生き物図鑑をつくろう

4年生:海と環境 水の循環

・わき水はどうしておいしいのだろう

5年生:海と産業 命の循環

・鮭は4年間なにをしているのだろう

6年生:海と私たち 卒業論文

・海の魚と川のさかなにちがいはあるのだろうか

### 海の中のプランクトン

5年 小森 那琉

プランクトンとは??  
 自らほとんど運動力を持たず水中・水面に浮いて生活している小さな生き物の総称。魚のえさとして重要。

研究のテーマを決めた理由  
 ・海にはプランクトンがいないと海の中の生物は生きていけないと聞いてプランクトンについて自分の目で見てみたかったから。ほかは特に興味があるものについて調べました。

方法・言周べ方  
 ・海水をペットボトルに入れてきて顕微鏡で観察。大きなものを顕微鏡で観察する。エサをあてて育てる。

研究で使う物  
 ・顕微鏡 金魚 印刷用紙  
 ・フルバート 水 1号皿  
 ・ペットボトル つまようじ  
 ・スポンジ・ラチェル

日	場所	条件	観察結果・写真
12/31(土)	自家採取	天気は曇り 気温 10℃ 湿度 70% 風速 1m/s 波高 10cm	海水を採取してペットボトルに入れて観察した。顕微鏡で観察した。プランクトンがいくつか見えた。写真は顕微鏡で撮影した。プランクトンの大きさは約1mm程度であった。
1/1(日)	自家採取	天気は曇り 気温 10℃ 湿度 70% 風速 1m/s 波高 10cm	海水を採取してペットボトルに入れて観察した。顕微鏡で観察した。プランクトンがいくつか見えた。写真は顕微鏡で撮影した。プランクトンの大きさは約1mm程度であった。

感想・まとめ  
 今回の自由研究で初めて海からプランクトンを採取し、顕微鏡で観察してみました。最初はプランクトンが何もないかと思いましたが、観察しているとプランクトンが増えたり減ったりするのを見ることができました。また、プランクトンにはいろいろな種類があることがわかりました。これからもプランクトンについて調べていきたいです。



# 実践上の工夫

## 2 教科・総合的な学習・行事等

### H29 校内研究

社会科・生活科との関連を考える  
～問題解決的思考  
を培う指導の在り方～

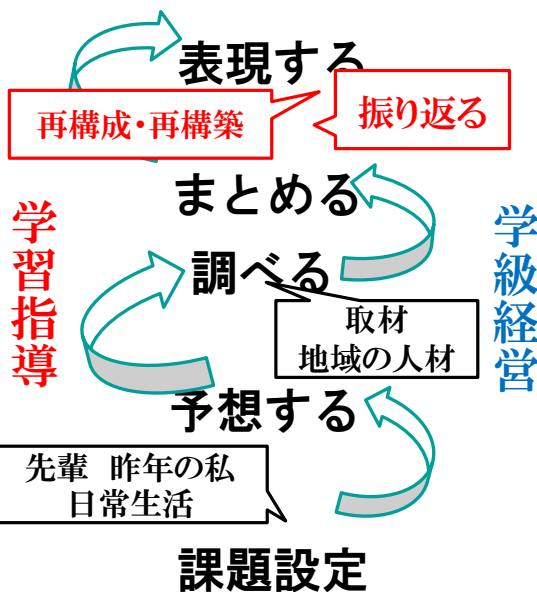
伝統1(海と産業)  
採卵・飼育・放流

伝統2(海と環境)  
有家川の水質調査

#### 「問い」を持ち学び続ける子

3つの方途で主題に迫る

- ・興味関心を高める導入(必要性切実さ)
- ・地域の特色を生かした教材の開発
- ・学び得た知識を表現する場の設定





# 実践上の工夫

## 3 交流

命の循環 命のつながり  
受精・飼育・放流 を体験する



水の循環 水のゆくえ  
植林・川・海 を体験する



種市高校の実習船で  
海から町を見つめ直す



海と産業  
函館市と八戸市、洋野町を比べて  
・魚市場で入札・魚の流通

人・もの・こと

環境

生命 地理

産業 歴史

「5つの視点」で



種市高校  
南部もぐりの見学

# 思いをつなぐ

## 1 実践の記録

- 海洋教育実践記録集 (H27～)
- 卒業論文集 (研究のまとめ) (H27～)
- 有家浜生き物図鑑 (H27～)

## 2 指導時間

カリキュラムマネジメント

- 海洋科:年間30時間
  - 海洋教育
- 岩手の「復興教育」

## 3 次への一步

学びの先

- 質の向上
- 学びの発展

洋野学

- 海山川による
- 「学びのストーリー」





一人でも、進んで・続けて・やりぬく、中野の宝



有家の海から眺める初日の出

# 私たちの教室は「洋野の自然と世界一の太平洋」

## 1 研究をつなぐ

岩手県洋野町立中野小学校  
6年 大粒来琥太郎

### 5年生の研究 ・海を調べる

川と海の生き物  
砂浜に落ちている  
シーグラス  
海の底の特徴  
海や川の危険  
塩分濃度をかえて  
アサリを飼育しよう

### 6年生の研究

・魚を調べる  
魚の体  
イカの体  
海や川でとれる  
魚の食べられ方

### 2年間のつながり

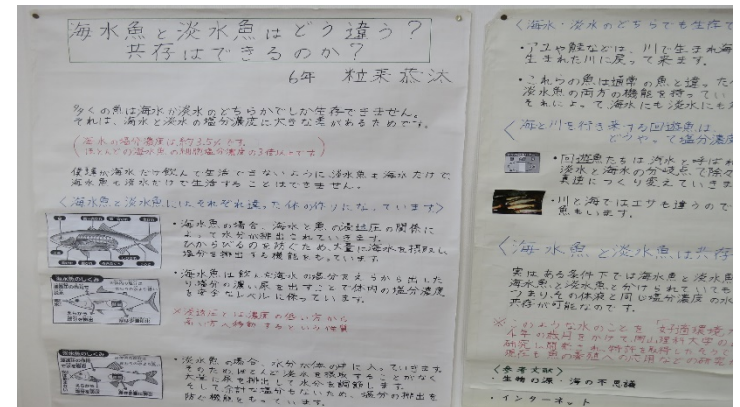
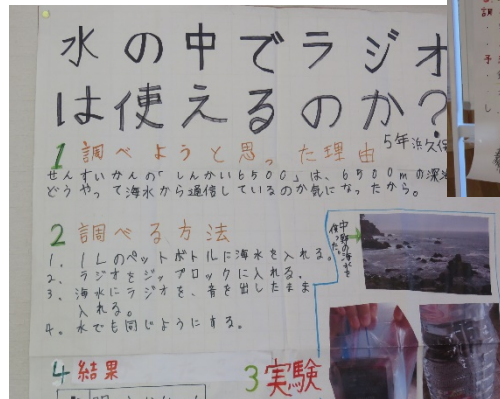
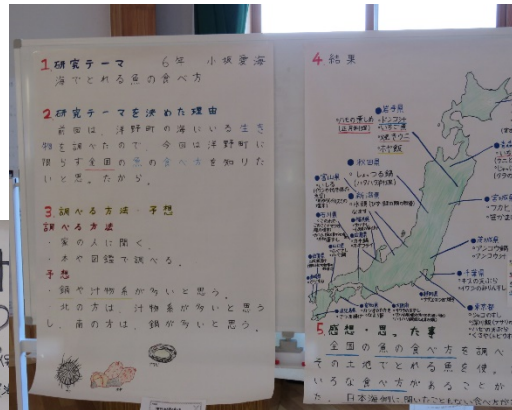
祐平さん

塩をつくる 夏と冬の海水と塩の量  
那琉さん

プランクトン 川・海の違い 水質  
琥太郎さん

人工海水と生物  
恭汰さん

海水を飲み水にできるか  
海水魚と淡水魚の体の仕組み





# 私たちの教室は「洋野の自然と世界一の太平洋」

## 2 海を守る・人を守る

### 海を守る

- 清掃活動  
5・6年生、中学生  
保護者、地域の皆さんといっしょに



- 植林活動(4年生)
- 水質調査(4年生)

### 人を守る

- 防潮堤見学(4年生)
- 復興学習



# 私たちの教室は「洋野の自然と世界一の太平洋」

## 3 伝統をつなぐ・命をつなぐ

### さけの飼育(5年生)

- 毎日の世話
- 春の放流

### さけの放流(2・6年生)

- 2年生と一緒に
- 学区の川(有家川に)放流





# 私たちの教室は「洋野の自然と世界一の太平洋」

## 4 人とつながる

### 窪川先生 浦野先生との**出会い**

### 種差小学校 との**出会い**



- 迎える準備
- レクレーション
- 学校紹介



- 海でも川でも生活  
できる「理由」
- ナメクジウオ！



# 私たちの教室は「洋野の自然と世界一の太平洋」

## 5 比べて

### 函館、八戸と洋野町

修学旅行で訪れた函館

- 函館の海、地形
- **魚市場**



八戸の**魚市場**  
洋野の**魚市場**



### 中野の海

生き物図鑑(3年生)



サンドクラブ(1年生)



## 平成 29 年度「海洋教育 教員研修プログラム」

学校名（団体名）	岩手県洋野町立中野小学校
担当教職員名	阿部正文

<b>単元（活動）の テーマ</b>	お帰りにさい、また来てね										
主な教科領域等	教科領域（総合的な学習、海洋科）参加児童生徒（ 5 学年 14 名）										
実践期間及び時数	平成 29 年 10 月 16 日 ～ 平成 29 年 10 月 25 日（ 6 時間）										
海洋教育の3つの柱との関連	※該当するものに丸をつけてください。複数可。（※センターのパンフレットやHPを参照） ①環境 ②生命 ③安全 ④その他（ ）										
活動報告											
<p>1) 学校（団体）全体における海洋教育の取り組みの概略</p> <p>地域の海洋について学ぶ特別な教科として、「海洋科」を設定している。全学年を通して地域素材「人・もの・こと」を活かし、1、2年生は生活科を、3～6年生は社会科や海洋科を中心として海洋教育の取り組みをしている。</p> <p>2) 単元（活動）の目的・ねらい</p> <p>地域の有家川に帰ってくるサケの生態を探り、関わる海や川の環境を守り、生命のつながりを体験を通して学ぶ。また、地域が海とともに発展してきたことを実感する機会とし、持続的発展的に海と共生しようとする心情を育てる。</p> <p>3) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表や写真等を使用して分かりやすくしてもよい）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>学習内容</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オリエンテーション（1時間）</td> <td>サケの孵化や放流の体験を通して、地域の特産の一つであるサケの生態や有家川にもどる理由などを、地域の海洋環境をもとに学習していくことを知る。</td> </tr> <tr> <td>サケ孵化場見学、採卵体験（2時間）</td> <td>サケの採卵体験をしたり、サケの生態について調べたりする。 サケが戻ってくる地域の環境について調べる。</td> </tr> <tr> <td>サケについての分析、整理（2時間）</td> <td>サケが地域にもどってくるための環境の在り方やサケの生態について新聞にまとめる。</td> </tr> <tr> <td>サケの学習をふりかえる。（1時間）</td> <td>まとめた新聞を見せ合い、友達からも知識を得て、ノートに記録する。 学習感想や今後生かしていきたいこと、地域の海洋環境への思いを書く。</td> </tr> </tbody> </table> <p>4) 研修プログラムの学びの中から実践に活かしたことや研修を受けての活動の変更・改善点 （※昨年度まで（研修を受ける前）の実践と比べて今年度の実践で変わった点。研修で可能になったこと等）</p> <p>環境との関わりを意識して、サケが戻ってくる数の変化やその理由を調べたり考えたりした。また、生命のつながりの理解を深めるために採卵体験を行った。</p> <p>5) 実践の成果（※研修内容も踏まえながら）</p> <p>①海洋教育の改善の視点から</p>		学習内容	目標	オリエンテーション（1時間）	サケの孵化や放流の体験を通して、地域の特産の一つであるサケの生態や有家川にもどる理由などを、地域の海洋環境をもとに学習していくことを知る。	サケ孵化場見学、採卵体験（2時間）	サケの採卵体験をしたり、サケの生態について調べたりする。 サケが戻ってくる地域の環境について調べる。	サケについての分析、整理（2時間）	サケが地域にもどってくるための環境の在り方やサケの生態について新聞にまとめる。	サケの学習をふりかえる。（1時間）	まとめた新聞を見せ合い、友達からも知識を得て、ノートに記録する。 学習感想や今後生かしていきたいこと、地域の海洋環境への思いを書く。
学習内容	目標										
オリエンテーション（1時間）	サケの孵化や放流の体験を通して、地域の特産の一つであるサケの生態や有家川にもどる理由などを、地域の海洋環境をもとに学習していくことを知る。										
サケ孵化場見学、採卵体験（2時間）	サケの採卵体験をしたり、サケの生態について調べたりする。 サケが戻ってくる地域の環境について調べる。										
サケについての分析、整理（2時間）	サケが地域にもどってくるための環境の在り方やサケの生態について新聞にまとめる。										
サケの学習をふりかえる。（1時間）	まとめた新聞を見せ合い、友達からも知識を得て、ノートに記録する。 学習感想や今後生かしていきたいこと、地域の海洋環境への思いを書く。										



(※学習活動・プログラム・カリキュラムをどのように改善したか)

行徳干潟のフィールドワークから環境保全のヒントを得て、地域の海洋環境とサケの数に注目して活動を行うことができた。また、生命のつながりについて理解を深め生命の尊さを実感させるために、サケの採卵体験を行った。精子を混ぜ合わせた受精卵を徹底した温度管理や水質管理の中で大切に守り育てている様子を観察することから、理科「魚のたんじょう」「人のたんじょう」や性指導と関連させつつ、生命について理解を深めることができた。

②児童生徒の変容の視点から

(※児童生徒にとって具体的にどのような学びがあり、どのような資質・能力・態度が身についたか)

東日本大震災後、サケの数が減っていることから、環境の変化が影響しているのではないかと考える子が多く、現在よりもサケの数が少なくならないでほしいと願う児童が多かった。「サケがたくさん産まれてほしい」「地域の川にサケがたくさん戻ってきてほしい」「戻ってこないサケはどうしているのか」などと考え、そのためには、地域の川や海の保全や環境を汚すゴミや排水などに気を付けたい、温暖化が進まないようにしたいと考えるようになった。この学習を通して、地域の特産であるサケに注目し、意欲をもって自ら課題をもち、調べ、まとめ、表現し、共有し合うといった問題解決的な学習ができた。また、調べたことに関して新たな問いをもち、詳しく知りたいと考える児童もいた。

③教職員や保護者の変容や地域との連携の視点から

(※教職員や保護者の変容、地域や関係機関との連携や波及効果など児童生徒以外の視点から)

海洋教育を本校の研究主題「問題解決的思考を培う指導の在り方」の中心にすえて研究を進めることができた。担任をもつ全ての教職員が、生活科や社会科、海洋科の学習において海洋教育の視点を盛り込んだ授業を披露し合い、海洋教育とどのような関連があったかとか、関連させることでどんなよさがあったかなど、研究を深めることができた。また海洋教育とは何か、何を活かすことができるかなど、海洋教育に興味をもち、その意義を考える機会が多くなった。

6) 本実践で特に工夫した点、特筆すべき内容や方策 (※他校や他団体に発信・普及したいこと)

- ・環境を保全する意識をさせたこと。
- ・地域の特産や携わる人々に直接触れ、体験する機会としたこと。

7) 実践から得られた教訓や克服すべき課題や困難

- ・生き物（生命）は環境の変化にとっても敏感であること。

8) 今後に向けた改善や展望

地域や他校にもよびかけ、広く海洋教育を学び合うようにしたい。



## 研究同人

佐々木秀善	佐々木浮子	高柳美千代	内田 浩昭
貴田 靖子	日影 知子	柳杭田知恵子	阿部 正文
渡辺 清子	中居ゆかり	駒井 奈々	田中 杏果
石橋 彩	浅水トモ子	阿部 厚子	米内ひとみ
林下 睦子	玉澤 幸子	武田 詩織	

